



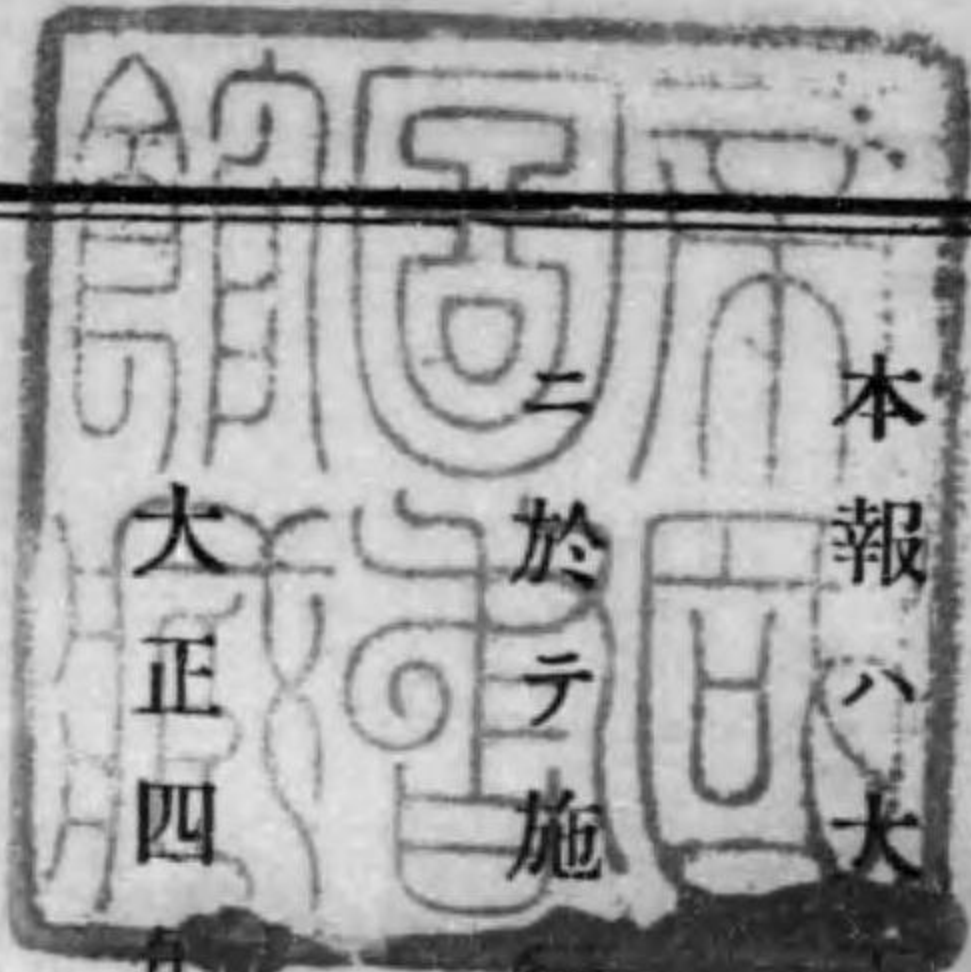
始



大正三年
京都府立農事試驗場業務功程

京都府立農事試驗場

142-275



緒言

本報ハ大正三年度ニ於ケル當本場及ヒ桃山、綾部分場

ニ於テ施行セシ業務ノ概要ヲ輯録シタルモノナ

大正四年六月

京都府立農事試験場

大正 4. 11. 19
内交



大正三年度京都府立農事試驗場業務功程

目次

本場ノ部

(一) 水稻ニ關スル試驗

一、	豐凶考照試驗	一
二、	品種試驗	四
三、	豫備品種試驗	九
四、	播種量對一株苗數試驗	十
五、	株距離試驗	十
六、	深耕下肥料用量試驗	十
七、	石灰窒素效果比較試驗	十
八、	石灰窒素連用試驗	十
九、	石灰窒素施用方法試驗	十
十、	同價肥料試驗	十
十一、	能登特產石灰肥効試驗	十九
十二、	磷酸肥料肥効比較試驗	十九

五六
81.11.10
夏四

十三、	多肥對病虫害抵抗力品種試驗.....	二十
十四、	過磷酸石灰施用量試驗.....	二十一
十五、	採種用作.....	二十二
十六、	稻乾燥法試驗.....	二十二

(二) 麥作ニ關スル試驗

一、	豐凶考照試驗.....	二十三
二、	品種試驗.....	二十六
三、	深耕ト肥料用量試驗.....	三十
四、	石灰窒素連用試驗.....	三十一
五、	石灰窒素殘効試驗.....	三十二
六、	石灰窒素施用法試驗.....	三十三
七、	畦形對播種法試驗.....	三十四
八、	石灰窒素効果試驗.....	三十四
九、	磷酸肥効比較試驗.....	三十五
十、	同價肥料試驗.....	三十六

(三) 稻麥ニ關スル調査事項

一、	稻麥特性調査.....	三十七
二、	分蘗力調査.....	三十七

(四) 見本試作

委託試驗.....	三十八
養 鶏.....	四十六
病虫ニ關スル試驗.....	四十六
(一) ゴールデンメロン新病害豫防試驗.....	四十七
(二) 麥類異穗病豫防試驗.....	四十七
(三) 冷水温湯浸法試驗.....	四十七
(四) 稻播種量并ニ一株本數ト螟虫被害トノ關係試驗.....	四十九
(五) 稻作病害豫防藥劑撒布試驗.....	五十
(六) 胡瓜露菌病試驗.....	五十
(七) 竹自然枯病豫防試驗.....	五十一
(八) 竹病虫害調査.....	五十二
(九) 栗樹病虫害調査.....	五十二
(十) 二化螟虫調査.....	五十二
(十一) 害虫飼育.....	五十二

圓筒試驗ノ部

冬 作

三、	枇杷	六十三頁
四、	葡萄	六十三頁

(三) 果實試賣ノ成績

一、	桃	六十三頁
二、	櫻桃	六十四頁
三、	葡萄	六十五頁

(四) 果樹病虫害試験

一、	寺田季病害豫防試験	六十五頁
二、	梨赤星病豫防試験	六十五頁
三、	櫻桃及桃ノもりにや病豫防試験	六十六頁
四、	果蠶虫驅除方法ト毒劑ノ効力試験	六十六頁
五、	果蠶虫被害豫防ト二度蒙被袋ニ關スル試験	六十六頁
	葡萄高等栽培	六十六頁
	竹種栽培	六十七頁
	蔬菜	六十七頁
(一)	品種比較試験	六十七頁

綾部分場ノ部

(一) 蔬菜ニ關スル試験

一、	甘藍品種試験	七十二頁
二、	甘藍肥料試験	七十二頁
三、	甘藍人尿尿用量試験	七十二頁
四、	蠶豆品種試験	七十三頁
五、	葱取扱試験	七十三頁
六、	葱品種試験	七十四頁
七、	菜菔品種試験	七十四頁
八、	蕪菁品種試験	七十四頁
九、	蕪菁肥料試験	七十四頁
一〇、	薯蕷品種試験	七十四頁

(二) 果樹ニ關スル試驗

一一、	里芋品種試驗.....	七十五頁
一二、	甘藷ノ插植期試驗.....	七十五頁
一四、	菜豆品種試驗.....	七十五頁
一五、	漬菜品種試驗.....	七十五頁
一六、	菜菔播種試驗.....	七十五頁
一七、	薑品種試驗.....	七十六頁
一八、	馬鈴薯品種試驗.....	七十六頁
一九、	胡瓜品種試驗.....	七十六頁
二〇、	胡瓜肥料試驗.....	七十六頁
二一、	茄室素質肥料試驗.....	七十七頁
二二、	茄子品種試驗.....	七十七頁
二三、	南瓜品種試驗.....	七十七頁
二四、	南瓜肥料試驗.....	七十七頁
二五、	越瓜品種試驗.....	七十七頁
二六、	豌豆品種試驗.....	七十八頁
二七、	胡瓜病害豫防試驗.....	七十八頁
二八、	蕃菽試作.....	七十九頁
二九、	玉蜀黍試作.....	七十九頁

(三) 見本試作

雜之部

印刷物	八十一頁
職員出張件數	八十一頁
桃山分場	八十二頁
綾部分場	八十二頁
種苗配布	八十三頁
麥種ノ部	八十四頁
鶏ノ部	八十五頁
桃山分場	八十五頁

綾部分場	八十六頁
野鼠驅除	八十六頁
分析	八十七頁
質問應答	八十九頁
文書受發件數	八十九頁
來觀人數	八十九頁
會計事務	九十頁
職員	九十一頁

大正三年度京都府立農事試驗場業務功程

本場ノ部

(一) 水稻ニ關スル試驗

一、豊凶考照試驗
 本試驗ハ明治三十五年度ヨリ繼續セルモノニシテ年々同一地ニ同一品種ヲ等一管理耕種ノ下ニ早中晩
 稻各三品種宛ヲ栽培シ、大暑、二百十日、秋分當時ニ於ケル生育狀況ニヨリ毎回之レヲ平年ト比較對
 照シ以テ其年ニ於ケル稻作豊凶ヲ豫想シ其筋ニ報告セリ

早	稻	有	岡	信州金子	福	山
中	稻	伊勢	錦	ビツクリ	朝	日
晚	稻	雄	町	竹成	神	力

大暑期ニ於ケル作況
 豊凶考照試驗供試稻ハ五月三日播種シ六月二十一日插秧セリ移植後降雨少ナク氣温高ク日照時間多ク
 爲メニ生育頗ル良好ナリト雖モ一部螟虫ノ被害アリタリ
 即チ大暑當日調査セル結果左表ノ如シ



種別	項目	大正三年度		前年		前十四ヶ年平均		前年度比較増減		前十四ヶ年比較増減	
		草丈	莖數	草丈	莖數	草丈	莖數	草丈	莖數	草丈	莖數
早稻	三種平均	二・五五	一七・三	一・八八	八・三	一・七七	五・七八	増	・六七	増	九・〇
	三種平均	二・四三	一四・〇	一・七五	六・三	一・七〇	六・四	増	・六八	増	七・八
中稻	三種平均	二・〇〇	一八・六	一・六五	八・三	一・五六	七・〇四	増	・三五	増	一・〇三
	三種平均	二・〇〇	一八・六	一・六五	八・三	一・五六	七・〇四	増	・三五	増	一・〇三

附記 大正元年度迄ノ耕種法ハ播種期五月十日前後播種量ハ坪四合ナリシモ一昨年度ヨリ播種期ヲ早メ播種量ヲ坪宛二合トセリ

本年大暑當日ヨリ二十日前日ニ至ル間ノ氣象ハ至極適順ニシテ此期間ノ平均氣温ハ二十一度九最高平均三十三度一最低平均二十二度七ニシテ是レヲ前年ニ比スレバ氣温ハ二度四最高一度五最低四度七何レモ高ク亦是等前十三ヶ年平均ニ比スレバ氣温二度最高二度四最低一度三何レモ同シ
降雨日數僅ニ二日ニシテ降雨總量百六十一耗一ニシテ是レヲ前年ニ比スレバ日數ニシテ七日少ク雨量二十三耗二少シ前十三ヶ年平均ニ比スレバ九日少ク雨量二十三耗二何レモ少シ是レニ反シ日照時間ハ三百四時四ニシテ前年ニ比シ十八時一多ク前十三ヶ年平均ニ比シ百六十五時七多シトス
本期間ノ氣象ハ前記ノ如ク頗ル良好ナリシ結果其成育極メテ良好ニシテ出穂ハ前年ニ比シ大差ナシ即チ早稻ハ八月下旬中稻ハ九月上旬晚稻ハ九月上旬ニシテ前十三ヶ年平均ニ比シ二三日早メタリ草丈分蘗數ハ前年及ビ前十三ヶ年平均ニ比シ頓ニ増加セリ
即チ二十日當日調査セル成績ヲ掲グレバ左ノ如シ

種別	項目	大正三年度		前年		前十四ヶ年平均		前年度比較増減		前十四ヶ年比較増減	
		草丈	莖數	草丈	莖數	草丈	莖數	草丈	莖數	草丈	莖數
早稻	三種平均	四・三四	一八・八	三・六四	一三・六	三・四一	九・八	増	・七〇	増	五・三
	三種平均	四・三四	一八・八	三・六四	一三・六	三・四一	九・八	増	・七〇	増	五・三

種別	項目	大正三年度		前年		前十四ヶ年平均		前年度比較増減		前十四ヶ年比較増減	
		草丈	莖數	草丈	莖數	草丈	莖數	草丈	莖數	草丈	莖數
中稻	三種平均	四・四八	一六・八	三・八一	一三・四	三・四七	一一・〇	増	・六四	増	三・四
	三種平均	四・四八	一六・八	三・八一	一三・四	三・四七	一一・〇	増	・六四	増	三・四
晚稻	三種平均	三・七六	二一・八	二・九八	一七・七	二・八一	一三・四	増	・七六	増	四・二
	三種平均	三・七六	二一・八	二・九八	一七・七	二・八一	一三・四	増	・七六	増	四・二

秋分期ニ於ケル作況

本年二十日ヨリ秋分前日迄ニ於ケル氣象ハ近來稀有ノ天候ニシテ即チ平均氣温二十九度三最高三十二度九最低十九度九ニシテ前年ニ比シ氣温五度一最高四度六最低五度六何レモ高ク亦是レヲ前十三ヶ年平均ニ比スレバ氣温四度三最高四度六最低一度九何レモ高シトス亦降雨日數ハ僅カニ此間一日ニシテ前年ニ比シ三日少ク前十三ヶ年平均ニ比シ七日五分少シトス亦降雨量ハ三十耗ニシテ前年ニ比シ四十六耗三少ク前十三ヶ年平均ニ比スレバ百十三耗三少シトス是レニ反シ日照時間ハ百四十時三十分間ニシテ前年ニ比シ十六時間餘多ク前六ヶ年平均ニ比シ四十五時餘多シトス
本期間ノ氣象ハ前掲ノ如ク頗ル順調ナリシ結果強壯ナル發育ヲ遂ゲ草丈ノ如キハ前年ニ比シ早稻ハ七寸中稻ハ一尺餘晚稻亦七寸餘モ伸長シ而シテ出穂期ハ早稻ハ八月二十日中稻ハ九月二日晚稻九月七日ニシテ前年ニ比シ早稻ハ九日間早ケレドモ其他ハ同様ナリトス亦一株平均穂數ハ早稻十七本六分中稻十四本一分晚稻十八本一分ニシテ前年ニ比シ早稻一本三分中稻七分晚稻四分何レモ増加シ是レヲ前十四ヶ年平均ニ比スレバ早稻八本六分中稻三本八分晚稻六本五分何レモ増加セリ

大雪期ニ於ケル作況

本年度水稲ハ前各期調査記載セシ如ク氣象頗ル適順ナリシ結果近年未曾有ノ作況ヲ示シ一時螟虫胡麻葉枯病ノ發生ヲ見且ツ登熟期ニ暴風雨ノ襲來シ一部倒伏スルニ至リシモ大ナル被害ナク即チ其收量ハ前年ニ比シ早稻ハ一割強中稻ハ單ニ前年同様ナリシモ是レヲ前十四ヶ年平均收量ニ比シ早稻一割二分強中稻一割一分強晚稻一割三分強ノ增收割合トナレリ今當一段歩收量并ニ前年度トノ比較對照ヲ示セバ左表ノ如シ

種別項目	大正三年度		前年度		前十四ヶ年平均		前年度比較増減		前十四ヶ年比較増減	
	收量	一升重量	收量	一升重量	收量	一升重量	收量	一升重量	收量	一升重量
早稻 三種平均	二・八一七	三八一・三	二・六一二	三九六・七	二・三〇二	三七八・三	一・〇八	一五・四	一・三三	三・一
中稻 三種平均	二・六八五	三八八・七	二・六八九	三八八・七	二・四二七	三七六・五	—	—	一・一一	一・三三
晚稻 三種平均	二・三五七	三八・	二・八八一	三九二・七	二・三八七	三七八・五	一・一三	四・七	一・三六	九・五
各稻總平均	二・九一九	三八六	二・七二七	三九二・七	二・三三二	三七七・	一・〇レ	六・七	一・三三	八・三

附記 ○印ハ減トス
二、品種試験

明治三十九年度ニ於テ從來試験セル成績ニ基キ選定シタル品種ヲ標準トシ數年來本府下各郡ニ栽培セラル、品種ニ付其性狀ヲ究メ分類上ノ型ニヨリテ得ルモノト農事試験場畿内支場ニ於テ育成セラレタル品種トニ付其優劣ヲ比較シ更ラニ本府適應ノ品種ヲ選擇センスルニアリ
供試品種ハ

標準種 十一種 (粳九種糯二種)
是レニ六十三品種ヲ加ヘタル七十四品種ナリ
今是レガ成績ノ大要ヲ示セバ左ノ如シ

粳稻ノ部

品種名	出穂期	收穫期	當一反歩 支米收量	玄米一 升重量	藁量	米質ノ 良否	種子取寄地	備考
六十八日	八月十三日	九月二十二日	一・八八五	三八〇	一〇九・六二	中	宇治郡農會	
尾張早稻	八月十五日	同	二・〇三七	三七八	七七〇・四	中	南桑田郡農會	

品種名	出穂期	收穫期	當一反歩 支米收量	玄米一 升重量	藁量	米質ノ 良否	種子取寄地	備考
白坊主	八月二十八日	十月七日	二・八六一	三八二	一六・四〇〇	中	北桑田郡農會	
四ツ屋	八月八日	九月二十二日	三・〇九〇	三八〇	一〇四・四〇〇	下	加佐郡農會	
德四郎	八月二十日	十月七日	二・九七五	三八六	一三〇・五〇〇	中	中郡農會	
大白河	八月二十六日	同	二・九三一	三八四	一二・七〇〇	中	同	
美濃早	九月七日	十月二十八日	三・三八六	三八六	一八・六九〇	中	竹野郡農會	
上州	八月十六日	九月二十二日	三・二四五	三八二	一二・〇九〇	中	新潟縣立農事試験場	
白州	八月八日	同	二・七一〇	三七八	八二・二〇〇	中	歐洲伊太利	
市着	八月二十五日	十月七日	三・〇二五	三七八	一四・〇〇〇	中	石川縣立農事試験場	
大有岡	八月十一日	同	二・八四五	三七六	一一・六〇〇	中	同	
米山	八月三十日	十月七日	二・五一一	三七八	一五・〇三〇	中	何鹿郡農會	
朝日	同	十月二十一日	二・七三三	三八六	一三五・九〇〇	中	乙訓郡農會	
周山	九月五日	十月二十八日	三・一七九	三八六	一八一・二〇〇	上	竹野郡農會	
大和	八月三十日	十月二十一日	三・〇六五	三九〇	一五六・二〇〇	上	南桑田郡農會	
大錦	九月五日	十月二十四日	三・七六七	三八六	一五五・四〇〇	上	船井郡農會	
箱崎	九月七日	十月二十八日	二・九四一	三八八	一七三・七〇〇	上	同	
ナギサ	九月四日	同	二・九六四	三八八	一八六・〇〇〇	上	南桑田郡農會	
西方	同	同	三・一三四	三八六	一八一・五〇〇	中	中郡農會	
大國	九月八日	同	二・一五七	三八二	七四・七〇〇	中	葛野郡農會	
中生	九月五日	同	三・一五二	三八二	一七六・一〇〇	中	加佐郡農會	

品名	出穗期	收穫期	當一反歩 支米收量	玄米一 升重量	藁量	米質 良否	種子取寄地	備考
佐賀	九月五日	十月二十八日	三二九五	三八〇	一八二・一〇〇	下	何鹿郡農會	
筑前	同	同	三・四〇一	三九〇	二〇二・八〇〇	上	南桑田郡農會	
月本	同	十一月三日	三・〇一六	三九〇	一七九・一〇〇	上	乙訓郡農會	
福島	同	同	二・六〇七	三八二	一四五・五〇〇	中ノ下	葛野郡農會	
器良	同	十月二十八日	三・五三三	三八六	一六二・〇〇〇	中	朝鮮模範農場	
早生	八月二十九日	十月二日	二・六四五	三八四	一七三・三〇〇	上	滋賀縣農事試驗場	
荒木	同	十月二十一日	二・九二七	三八八	一四八・八〇〇	中ノ下	鳥取縣農會	
龜治	九月四日	十一月三日	三・二八四	三九四	一六〇・五〇〇	中ノ下	廣島縣農事試驗場	
改良	九月五日	十月二十八日	三・四九四	三九二	一六六・五〇〇	上	愛媛縣農事試驗場	
相良	九月八日	十一月三日	三・五六七	三九六	一六二・九〇〇	中	乙訓郡農會	
三井	九月五日	十月二十四日	三・二六九	三九四	一六〇・五〇〇	上	乙訓郡農會	
大關	同	十月二十八日	三・五三三	三八八	一七五・五〇〇	中ノ上	鳥根縣農事試驗場	
幾早	八月二十六日	十月二日	三・一〇四	三八二	一一九・四〇〇	中	幾內支場	
同	八月二十九日	十月二十一日	三・〇九〇	三八〇	一一〇・三〇〇	中	同	
同	八月三十一日	同	二・九四五	三八八	一一九・〇〇〇	中	同	
同	八月二十七日	十月七日	三・二一三	三八八	九〇・三〇〇	中	同	
同	八月八日	十一月三日	三・五四六	三八八	一六八・三〇〇	中	同	
同	九月七日	十月二十八日	三・三〇七	三八二	一五〇・三〇〇	中	同	
同	九月四日	同	三・一五四	三八六	一五〇・〇〇〇	上	船井郡農會	

八重	九月五日	十月二十八日	三・二二二	三八二	一三〇・〇〇〇	中	乙訓郡農會	
福山	八月三十日	十月七日	二・六七六	三八六	一一〇・四〇〇	中ノ上	鳥取縣農事試驗場	
伊勢	八月二十九日	十月二十一日	二・九七七	三八六	一三七・二〇〇	上	三重縣農事試驗場	
大政	九月六日	十一月五日	三・三五八	三八六	一三六・八〇〇	中ノ下	愛知縣農事試驗場	
鬼熊	九月八日	同	三・〇二三	三八四	一四四・八〇〇	下	愛知縣農事試驗場	
東大	九月十一日	同	二・五六四	三八八	二〇一・二〇〇	中	宇治郡農會	
改良	九月六日	同	三・〇四五	三九二	一六八・〇〇〇	中	愛知縣農事試驗場	
精力	同	同	三・三二五	三八八	一五二・四〇〇	中	綴喜郡農會	
白本	九月五日	同	三・二〇九	三九二	一五六・〇〇〇	下	宇治郡農會	
明治	九月六日	同	二・八五〇	三九〇	一四九・六〇〇	中ノ下	綴喜郡農會	
京本	九月四日	十月二十八日	三・〇六四	三八六	一一八・四〇〇	中	加佐郡農會	
幾晚	九月七日	十一月五日	三・〇〇六	三八六	一八四・〇〇〇	中	幾內支場	
同	同	同	三・〇五六	三八四	一七三・二〇〇	中	同	
同	同	同	三・〇二五	三八八	一八七・六〇〇	中	同	
同	同	同	三・〇五〇	三八六	一九六・〇〇〇	中	同	
同	同	同	三・〇七五	三八八	一五二・九〇〇	中	同	
同	同	十一月四日	三・三九九	三八〇	一六三・二〇〇	中	同	
同	同	同	三・一七二	三九〇	一五六・四〇〇	中	同	
同	同	同	二・八七六	三八六	一六九・二〇〇	中	同	
同	同	同	二・七〇二	三九四	一六二・四〇〇	上	山口縣農事試驗場	

品名	出穂期	收穫期	當一反歩 玄米收量	玄米一 升重量	葉量	米質ノ 良否	種子取寄地	備考
竹成力	九月七日	十一月四日	三〇二七	三八八	一六九・二〇〇	中ノ下	三重縣農事試驗場	
神	同	同	三〇二七	三八八	一六九・六〇〇	中	兵庫縣揖保郡	

糯稻之部

白糯	八月二十二日	十月二日	二五三八	三八〇	一〇一・六〇〇	中	南桑田郡農會	
卵糯	八月二十七日	十月二十二日	二一七三	三八〇	一一〇・〇〇〇	中	同	
遲糯	九月三日	十月二十八日	二二三一	三七八	一四八・八〇〇	上	天田郡農會	
赤糯	九月一日	十月二十三日	二五三一	三七八	一二五・二〇〇	上	同	
石上糯	八月二十三日	十月七日	一九〇四	三八六	一一〇・四〇〇	中	栃木縣農事試驗場	
早生糯	八月十九日	九月二十二日	二五四六	三七六	九七・六〇〇	中	何鹿郡農會	
善光寺糯	八月二十二日	十月二日	二五〇二	三八〇	九七・二〇〇	下	中郡農會	
赤糯	九月二日	十月二十八日	二五二一	三七四	一五七・六〇〇	下	同	
篠原糯	八月三十一日	十月二十三日	二五一一	三八二	一三一・六〇〇	上	滋賀縣野洲郡	
元氣糯	八月二十八日	十月七日	二五八九	三六七	一一四・四〇〇	上	紀伊郡農會	
御前糯	八月二十五日	同	二五九〇	三八四	一〇二・〇〇〇	中		

右成績ニ依レバ早稻ニ於テハ上州、巾着、中稻ニ於テハ大和錦、三井寺晚稻ニテハ幾中六號、大關、相徳、器良好等品質優良ニシテ收量多シ

三、豫備品種試験

各地有名ノ品種タリト雖モ未ダ一回モ當地方ニ栽培セラレズ從テ其特性不明ニシテ品種試験ニ加ヘ難キモノ及ビ府下各地ニ栽培セラル、水稻品種ヲ蒐集試作シ是レガ特性ヲ調査シ以テ名稱ノ異同ヲ明ラカニシ品種試験ト相俟テ本府下栽培稻品種改良ノ資ニ供セントス

供試品種
左ノ四十三品種ヲ以テ是レニ充ツ
今是レガ成績ノ大要ヲ示セバ次ノ如シ

品名	出穂期	收穫期	當一反歩 玄米收量	玄米一 升重量	葉量	米質ノ 良否	種子取寄地	備考
明治穗	八月三十日	十月十日	二五九九	三八六	一四四・〇〇〇	中	兵庫縣農事試驗場	
關取	九月二日	十月二十二日	二四一一	三九二	一三三・二〇〇	中	三重縣農事試驗場	
戊申都	九月五日	十月二十六日	三一五	三八八	一七二・二〇〇	上	山口縣農事試驗場	
穀良都	八月二十七日	十月二十二日	二九九二	三八八	一三五・〇〇〇	中ノ上	同	
朝日山	八月二十八日	十月七日	二六六九	三八八	一二七・八〇〇	中	島根縣農事試驗場	
小腹	八月二十七日	十月二日	二六四五	三八六	一二〇・六〇〇	下	同	
彌生	九月八日	十一月三日	三四六七	三八八	一九一・四〇〇	中	静岡縣農事試驗場	
中熟神	九月五日	十一月四日	三五九一	三九〇	一六九・八〇〇	中	畿内支場	
多平撰	九月四日	十一月三日	三一四一	三八八	一九二・六〇〇	中ノ上	静岡縣農事試驗場	
利科	九月十一日	同	三二六五	三八〇	二二五・〇〇〇	中	同	
目更	九月八日	同	三〇九三	三八六	一七四・〇〇〇	中	同	

品名	出穂期	收穫期	當一反歩 支米收量	升重 支米一	葉量	米質 良否	種子取寄地	備考
赤土	九月三日	十月二十四日	二・八三	三八四	一六三・八〇〇	中	愛媛縣農事試驗場	
住吉	九月一日	同	二・七五三	三八六	一五〇・六〇〇	中ノ上	竹野郡農事試驗場	
赤藏	九月四日	十月二十六日	二・九六三	三八六	一六二・〇〇〇	中	同	
地蔵早	八月十一日	九月二十二日	三・六一九	三七四	一〇九・二〇〇	中	葛野郡農會	
榮志	九月四日	十月二十四日	二・九五二	三八八	一五七・二〇〇	中ノ上	北桑田郡農會	
小志	九月七日	十一月三日	三・二七二	三八二	一八五・四〇〇	下ノ上	何鹿郡農會	
播州	九月六日	同	三・一二七	三八六	一三五・六〇〇	中	乙訓郡農會	
岩清	九月七日	同	二・九九〇	三八六	一七〇・四〇〇	中	綴喜郡農會	
ハツ	九月四日	十月二十四日	三・二一五	三九〇	一七四・〇〇〇	上	南桑田郡農會	
藤七	九月五日	十月二十四日	二・八四八	三八八	一三三・四〇〇	中	加佐郡農會	
善光	九月五日	十月二十四日	二・六九二	三九〇	一八三・〇〇〇	中ノ上	中郡農會	
赤芒	九月九日	同	三・〇八三	三八四	一五六・〇〇〇	中ノ下	當場撰出	
幾中	九月三日	十月二十二日	三・一八七	三九二	一七三・二〇〇	中ノ上	幾内支場	
同	九月六日	十一月三日	三・一三二	三八六	一七五・八〇〇	中	同	
幾晚	九月八日	同	二・九〇〇	三九〇	一九〇・八〇〇	中	同	
同	九月八日	同	三・五四七	三八二	二〇一・六〇〇	中	同	
同	九月六日	十月二十四日	二・〇一七	三七四	一五三・〇〇〇	中	同	
同	九月六日	十月二十四日	二・三一一	三八二	一一一・六〇〇	中	同	
同	九月六日	十月二十四日	三・八五一	三九二	一六八・〇〇〇	中	乙訓郡羽束師村	

品名	出穂期	收穫期	當一反歩 支米收量	升重 支米一	葉量	米質 良否	種子取寄地	備考
二本	八月二十五日	十月二日	二・六九〇	三七四	一一七・〇〇〇	下	富山縣青島信用組合	
旭	八月二十日	同	二・四二七	三八〇	一三五・六〇〇	中	同	
改良愛國	九月六日	十一月三日	三・三三九	三八八	一九四・四〇〇	中	乙訓郡農會	
萬國	八月十九日	九月二十三日	二・九四八	三八二	一一九・六〇〇	下	埼玉縣農事試驗場	
靜岡	九月六日	同	三・四九一	三八二	一八三・六〇〇	中	綴喜郡	
晚生	九月九日	十一月五日	三・三二〇	三八二	二〇七・〇〇〇	下ノ上	愛宕郡農會	
ウヅラ	九月九日	同	三・〇五五	三八〇	一三六・八〇〇	中	同	
短幹神	九月十日	同	三・一〇一	三七二	一八三・六〇〇	下	綴喜郡農會	
長類	九月十日	同	二・九七二	三八二	一五〇・六〇〇	下	相樂郡	
出安	九月十日	同	三・二一一	三八四	二〇五・二〇〇	下	同	
關	九月三日	十月二十六日	二・九一七	三八二	一七二・二〇〇	下	同	
小	九月六日	同	二・七一六	三八八	一八〇・〇〇〇	中	綴喜郡	
又	八月二十六日	十月二日	三・三七五	三八二	一一二・二〇〇	中	同	
器	九月九日	十一月五日	三・四七〇	三七四	一六二・〇〇〇	下ノ下	綴喜郡	
良	九月五日	十一月三日	三・一六〇	三八八	一八五・四〇〇	中	愛宕郡農會	
竹成	九月四日	同	三・四一五	三八六	二一四・二〇〇	中	當場撰出	

四、播種量對一株苗數試驗
 苗代一坪ニ播種スベキ種子量ノ多少ト一株ニ植付クベキ本數トノ關係ハ其收量ニ如何ナル影響ヲ及ボ
 スヤヲ知ラントス
 從來苗代一坪ニ播種スベキ種子量ハ四合乃至五合一株ニ植付クベキ苗數ハ四本又ハ五本ヲ以テ標準ト

ナセルモ播種量ヲ減ジ所謂薄蒔トナシ苗代ニ於テ既ニ三、四本ニ分蘗セシメ假令分蘗セザルモ一株數ヲ減ジ一坪株數ヲ増加スルトキハ其收量ニ於テ優ルトモ劣ル事ナキ結果ヲ示スト言フヲ以テ是レガ正否ヲ研究セントス
 今是レガ成績ノ大要ヲ示セバ次ノ如シ

試驗區名	當一反歩收量	玄米一升重量	當一反歩稈量	備	考
一合蒔 一本植	三・二九七	三八四	一九六・五〇〇		
同 五本植	三・六七五	三八六	一八〇・〇〇〇		
二合蒔 一本植	三・三〇六	三八六	一七七・〇〇〇		
同 五本植	三・四五三	三八八	二一九・三〇〇		
三合蒔 一本植	三・四〇二	三八六	一六三・二〇〇		
同 五本植	三・五八八	三八八	一九九・八〇〇		
四合蒔 一本植	三・二一三	三八八	一七三・七〇〇		
同 五本植	三・〇八一	三九〇	一九八・九〇〇		
五合蒔 一本植	二・九七九	二八〇	一七六・四〇〇		
同 五本植	三・二六五	三九四	一六五・九〇〇		

右成績ニ依レバ一合蒔五本植最收量多ク五合蒔一本植最モ劣レリ大體ニ於テ薄播五本植ノ成績佳良ナルヲ見タリ
 五、株距離試驗

插秧當時ノ分蘗セルト然ラザルトハ收量ニ如何ナル關係ヲ及ボスヤヲ驗スルト同時ニ株距離ノ適度ヲ

究メントス
 苗代播種量ヲ減ゼバ苗代期間ニ於テ既ニ二本以上分蘗セルアリ亦中ニハ分蘗セザルモノアリ各之レヲ一粒植トナサンニハ其株間即チ一株ニ植付クベキ株數ハ幾何ヲ以テ好適トスルカ前項試驗ト相俟テ其適否ヲ知ラントス
 今是レガ成績ノ大要ヲ示セバ左ノ如シ

試驗區名	當一反歩收量	玄米一升重量	當一反歩稈量	備	考
一本立苗 三十六株	三・二二七	三九二	一八三・六〇〇	方 一尺	
分蘗苗 三十六株	三・二一一	三九四	一八一・四一〇	同	
一本立苗 四十二株	三・二〇二	三九二	一八六・九〇〇	東西一尺 南北八寸六分	
分蘗苗 四十二株	三・三六一	三九〇	一八五・四〇〇	同	
一本立苗 四十八株	二・八八〇	三九〇	一五二・七〇〇	東西一尺 南北七寸五分	
分蘗苗 四十八株	三・二九七	三八八	一八五・一〇〇	同	
一本立苗 五十四株	二・八二六	三九二	一七三・四〇〇	東西一尺 南北六寸六分	
分蘗苗 五十四株	三・一七〇	三八六	一八六・三〇〇	同	
一本立苗 六十株	二・七九五	三九〇	一八九・六〇〇	東西一尺 南北六寸	
分蘗苗 六十株	二・九八八	三八八	一七五・五〇〇	同	

右ノ成績ニ依レバ分蘗苗ハ一般ニ一本立苗ニ優リ中ニモ四十二株植最モ佳良ニシテ三十六株植四十八株植是レニ次ギ六十株最モ劣ルヲ見ル

六、深耕ト肥料用量試験

耕地耕勸ノ深淺ニ對シ肥料用量ヲ異ニスルニ於テ耕地ノ性質ニ如何ナル變化ヲ來タシ稻作ニ如何ナル影響アルヤヲ知り且ツ肥料ノ得失ヲ知ラントスルモノナリ耕土ハ肥料ヲ保蓄シ作物ノ吸收ヲ待ツモノニシテ耕勸ノ深淺如何ハ肥料保蓄ノ度ニ強弱ヲ生ズベシ茲ニ於テ本場ノ如キ表土三寸ノ深サヲ有スル壤質植土ナル地ニ於ケル肥料ノ用量ト深耕ノ關係如何ヲ究メ同時ニ深耕ニヨリ耕起セラレタル底土ガ表土トナルニ際シ施肥量ノ増加トガ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ知ラントス
是レ從來本場ニ於ケル深耕試験ノ成績ガ深耕當初ニ於テ生育不良ナルヲ以テ之レガ改良ヲ施肥量ノ増加ニ俟タントスルヲ以テナリ
今是レガ成績ノ大要ヲ示セバ次ノ如シ

試驗區名	當一反歩 玄米收量	玄米一升重量	當一反歩 秤量	備考
多肥 普通 耕	三・六〇九	三七九	二二二・八〇〇	多肥區ハ普通肥料五割増トス
同 一寸 深 耕	三・三二九	三七九	二〇九・四〇〇	
同 二寸 深 耕	三・八一〇	三七八	二二四・八〇〇	少肥區ハ當場普通肥料トス
少肥 普通 耕	三・四六九	三九一	一七六・八〇〇	
同 一寸 深 耕	三・六一五	三九〇	一八五・四〇〇	
同 二寸 深 耕	三・七一四	三八六	一七一・二〇〇	

右ノ成績ニ依レバ二寸深耕區何レモ良好ニシテ一般ニ深耕ノ度強キ程優良ナルモノ、如シ然シ深耕ノ度強キニ從ヒ一升量ノ減ズルヲ見ル

七、石灰窒素効果比較試験

水稻作肥料トシテ石灰窒素ノ肥効ヲ知ラントス
但シ前作ハ麥ノ普通栽培ヲ爲シ稻作ニ於テノミ同地ニ等一肥料ヲ施用ス
試驗區別硫酸安母尼亞ヲ對照肥料トナシ反應ヲ二様ニシ左ノ四區トス
甲、硫酸安母尼亞 過磷酸石灰 硫酸加里
乙、同 同 木 灰
甲、石灰窒素 同 硫酸加里
乙、同 同 木 灰
今是ガ成績ノ大要ヲ示セバ次ノ如シ

試驗區名	當一反歩 玄米收量	玄米一升重量	當一反歩 秤量	備考
硫酸安母尼亞 甲	二・九二二	三八八	一五五・四〇〇	右成績ニ依レバ石灰窒素區優良ニシテ同區中ニ於テモ甲最モ佳ナリ
同 乙	二・八二八	三八六	一六四・四〇〇	
石灰窒素 甲	三・一六六	三八六	一七八・二〇〇	八、石灰窒素連用試験 同一地ニ石灰窒素ヲ各作連用スルニ際シ石灰窒素ノ肥効ヲ永年ニ亘リ驗知セントスルモノニシテ效果試験ト相俟テ之レヲ知ラントシ左記六區ニ分テ試験セリ
同 乙	三・〇三三	三八八	一六一・四〇〇	

硫酸安母尼亞 甲 過磷酸石灰 硫酸加里
 石灰窒素 甲 同 木 灰
 乙 同 硫酸加里
 無窒素 甲 同 木 灰
 乙 同 硫酸加里
 木 灰

今是レガ成績ノ大要ヲ示セバ左ノ如シ

試驗區名	當一反步收量	玄米一升重量	當一反步稈量	備	考
硫酸安母尼亞 甲	二・五〇〇	三九二	一三九・二〇〇		
同 乙	二・七七四	三八八	一三一・一〇〇		
石灰窒素 甲	三・〇〇三	三八八	一七五・二〇〇		
同 乙	二・九七五	三九二	一六四・〇〇〇		
無窒素 甲	二・三五八	三九二	一二〇・九〇〇		
同 乙	二・四六五	三九〇	一二六・九〇〇		

右成績ノ如ク石灰窒素効果試驗及ビ本試驗共ニ石灰窒素區ハ硫酸安母尼亞區ニ優リ乙區最モ優良ナリ
 九、石灰窒素施用試驗
 石灰窒素施用ノ時期ト方法トヲ知ラントスルモノナリ元來石灰窒素ハ下種又ハ栽植ノ際施用スルトキ
 ハ有害作用ヲ呈スルヲ以テ普通二週間前ニ施スヲ適當トセリ然ルニ本府ノ如キ二毛作地大部分ヲ占ム

ル地方ニ於テハ前後作ノ期間短キヲ以テ是レガ施用ノ良法ヲ究メントスルモノニシテ左ノ六區ニ分チ
 試驗セリ

第一 插秧二週間前圃場ニ施用
 第二 二週間厩肥ト混ジ置キ插秧日前施用
 第三 石灰窒素ヲ施サズ
 第四 插秧一週間前圃場ニ施用
 第五 一週間厩肥ニ混ジ置キ插秧日前ニ施用
 第六 插秧當日施用

今是レガ成績ノ大要ヲ示セバ左ノ如シ

試驗區名	當一反步收量	玄米一升重量	當一反步稈量	備	考
插秧二週日前施用	三・一八九	三九〇	一七三・七〇〇		
插秧二週日前厩肥混合	三・一八三	三八八	一八三・九〇〇		
石灰窒素ヲ施用セズ	二・八五九	三九〇	一六六・八〇〇		
插秧一週日前施用	三・一七七	三八八	一八五・七〇〇		
插秧一週日前厩肥ニ混合	三・一八二	三八八	一七一・〇〇〇		
插秧當日施用	三・〇七六	三九〇	一六二・三〇〇		

右成績ニ依レバ當日施用セザル限リハ二週日前ニ施用スルモノ一週日前ニ施用スルモノ大差ナキ者ノ如シ
 十、同價肥料試驗
 府下各地ニ使用セラル、各種人造肥料其他ノ肥料ニ付其價格ヲ同一ニシテ是レガ肥効ノ優劣ヲ知ラン

トスルモノニシテ何レモ堆肥百五十貫匁當ヲ使用シ供試肥料價ハ何レモ反當金五圓トセリ供試肥料名並ニ各種肥料價及ビ反當施用量ヲ示セバ左ノ如シ

肥料品種名	對十貫匁肥料代價	反當施肥量	備考
◎ 別製稻肥料	貳圓四拾五錢	二〇・四〇〇	
◎ 長尾肥料二號	參圓八拾五錢	一三・〇〇〇	
◎ 夕印多木肥料	參圓七拾五錢	一六・六七〇	
◎ 夕印多木肥料	四圓拾錢	一三・三三〇	
◎ 日星肥料三號	四圓四拾錢	一三・二〇〇	
◎ 日星肥料三號	四圓參拾錢	一一・三六〇	
◎ アルカリ肥料六號	四圓參拾錢	一一・六三〇	
◎ アルカリ肥料八號	參圓五拾錢	一四・三〇〇	
◎ 鯀種油粕	參圓五拾錢	八・五〇〇	
◎ 菜種油粕	貳圓參拾錢	一五・五七〇	
◎ 大豆粕	貳圓參拾錢	一八・八七〇	

附記 肥料價ハ當場附近賣買相場トス
今是レガ成績ノ大要ヲ示セバ左ノ如シ

試驗區名	當一反步 玄米收量	玄米一升重量	當一反步 秤量	備考
◎ 稻肥料	三・三四三	三八八	一五四・五〇〇	

◎ 別製稻肥料	◎ 長尾肥料	◎ 夕印多木肥料	◎ 夕印多木肥料	◎ 日星肥料第三號	◎ 日星肥料第三號	◎ アルカリ肥料六號	◎ アルカリ肥料六號	◎ アルカリ肥料八號	◎ 鯀種油粕	◎ 菜種油粕	◎ 大豆粕
三・二二九	三・二一三	三・二一四	三・三三四	三・三七三	三・三〇一	三・二六九	三・二六三	三・二六三	三・四五六	三・四五六	三・八八六
三九二	三九二	三九二	三九二	三八八	三九〇	三九二	三九二	三九二	三九〇	三九〇	三八八
一三六・二〇〇	一四二・五〇〇	一五三・〇〇〇	一五〇・三〇〇	一四一・〇〇〇	一五七・八〇〇	一五九・〇〇〇	一四二・五〇〇	一四二・五〇〇	一二九・〇〇〇	一二九・〇〇〇	一五四・八〇〇

右ノ成績ニ依レバ大豆粕最モ佳良ニシテ菜種油粕是レニ次ギ其他ニ大ナル相違ナキヲ見レバ人造肥料ハ一般ニ大豆粕及菜種油粕ニ劣ルモノ、如シ
十一、能登特産石灰肥効試驗
有機質肥料ト共ニ普通石灰ヲ施用セルモノトノ効力ノ差異ヲ知ラントスルモノナリ
今是レガ本年度ニ於ケル成績ノ大要ヲ示セバ左ノ如シ

試驗區名	當一反步 玄米收量	玄米一升重量	當一反步 秤量	備考
無石灰	三・六七六	三七六	一八三・六〇〇	
能登産石灰反四十貫	三・八八三	三七八	一八〇・〇〇〇	
普通石灰反四十貫	三・〇三二	三七二	一八〇・三〇〇	

試驗區名	一反歩當量	玄米一升重量	當一反歩程量	備考
同 反六十貫	三・七七〇	三八〇	一八一・三〇〇	
同 反八十貫	三・二七六	三七六	一九六・八〇〇	

右成蹟ニヨツテ之レヲ觀レバ普通石灰反四十貫區最モ良好ニシテ能登産石灰是レニ次ギ例年ノ成蹟モ亦同ジ

十二、磷酸肥料効比較試驗
 稻作ニ就キ有機性及ビ無機性磷酸ノ肥効ヲ知ラントス
 今是レガ成蹟ノ大要ヲ示セバ左ノ如シ

試驗區名	當一反歩收量	玄米一升重量	一反歩程量	備考
過磷酸石灰	三・二六五	三八四	一八〇・二〇〇	
蒸製骨粉	三・二三八	三八〇	一八〇・九〇〇	
骨粉	三・一一一	三八二	一八四・四〇〇	
無磷酸粉	三・三七八	三八〇	一八六・九〇〇	

右ノ成蹟ニ依レバ無磷酸區最モ佳良ニシテ本場ノ土壤ニハ磷肥ノ要ナキガ如シト雖モ尙ホ研究ノ要ヲ認ム
 十三、多肥對病虫害抵抗力品種試驗
 多肥ニ堪ヘ病虫害ノ抵抗力強キ品種ヲ驗出セントス
 肥料ハ普通肥料(當場)ノ五割増シトス

今是レガ供試品種名及ビ成績ノ大要ヲ示セバ左ノ如シ

供試品種名	當一反歩收量	玄米一升重量	一反歩程量	病虫害
神力	三・一八四	三八〇	二二八・六〇〇	少
龜治	三・二七三	三八〇	一八一・二〇〇	多
竹成	三・〇九一	三八〇	二二一・〇〇〇	多
八重	三・四二八	三八二	一九二・六〇〇	少
狸千	三・五九一	三八二	一九三・八〇〇	少
佐賀	三・〇六四	三七八	一八〇・九〇〇	同
目黒	三・四〇九	三七八	二二一・七〇〇	同
千本	三・三三二	三八〇	二二一・〇〇〇	同
白笹	三・三九二	三八二	二四五・四〇〇	同

右ノ成蹟ニ依レバ狸千本、八重穂等最モ優良ナリ
 十四、過磷酸石灰施用量試驗
 過磷酸石灰施用量ノ多少ニヨリ稻作ニ及ボス關係ヲ知ラントス
 今是レガ試驗區名並ニ成績ノ大要ヲ示セバ左ノ如シ

試驗區名	當一反歩收量	玄米一升重量	備考
過磷酸石灰 反十貫區	三・一〇〇	三八八	
同 反十五貫區	二・九六四	三八七	

試驗區名	當米反歩量	玄米一升重量	備考
同 反二十貫區	三・一八九	三八八	
同 反二十五貫區	二・八二七	三八八	

十五、採種用作

當場品種試驗中優良ナル左記ノ品種ヲ栽培シ特別ナル注意ヲ以テ充分淘汰精撰シ種子用トシテ一般當業者各郡農會並ニ管外ノ希望者ニ配布セリ

早生稻 有岡、米山、大場、巾着、早生神力

早中稻 福山、朝日、伊勢錦、雜中二號、雜早五八號、大和日出

中稻 八重穗、東京、月本、箱崎、改良白玉、中生神力、西方寺、雜中四七號、戊申都

晚稻 雄町、神力、竹成、雜晚十二號、雜晚七一號、旭、龜治、八重穗

糯稻 篠原糯、元氣糯

十六、稻乾燥法試驗

本試驗ノ目的ハ水稻ヲ乾燥スルニ當リ如何ナル方法ニヨルヲ良シトスルカヲ知ラントスルト同時ニ乾燥ノ程度ニヨリ品質並ニ收量ニ如何ナル關係ヲ及ボスマヲ知ラントス

府下ニ於テ各地ニ最モ多ク行ハル、乾燥方法ハ山城地方ハ主トシテ一段掛即チ馬稻架式ニシテ兩丹地方ニアリテハ五段及至八段ノ階段懸稻架ナリトス故ニ兩式ノ外ニ直拔乾燥法ヲ加ヘ左ノ方法ニヨリ試驗セリ

直拔乾燥ノ部

- 一、一日間筵乾燥
- 二、三日間筵乾燥
- 三、五日間筵乾燥

一段懸稻架乾燥ノ部

- (一) 一週間架上乾燥
 - 一、一週間乾燥ノ儘
 - 二、同上ノモノ一日間筵乾
 - 三、同上ノモノ二日間筵乾
- (二) 十日間架上乾燥
 - 一、十日間架上乾燥ノ儘
 - 二、同上ニシテ一日間筵乾
 - 三、同上ニシテ二日間筵乾

階段懸稻架乾燥ノ部

- (一) 一週間架上乾燥
 - 一、一週間架上乾燥ノ儘
 - 二、同上ニシテ一日間筵乾
 - 三、同上ニシテ二日間筵乾
 - (二) 十日間架上乾燥
 - 一、十日間架上乾燥ノ儘
 - 二、同上ニシテ一日間筵乾
 - 三、同上ニシテ二日間筵乾
- 右ノ成績ニヨレバ一般懸區ハ降雨少ナキ山城地方ニ適スベク階段懸區ハ降雨比較的多キ兩丹地方ニ適スルモノ、如シ
- 筵乾ハ如何ナル稻架ニ依ルト雖モ之レヲ行フト行ハザルトハ米質ニ大ナル關係アルヲ知ルベク以テ如何ニ短時間タリト雖モ行フノ要アルモノ、如シ
- 右詳細ナル成績ハ成績報告第二十一號(大正四年三月)ヲ参照セラレタシ

(一) 麥作ニ關スル試驗

一、豐凶考照試驗

本試驗ハ明治三十三年度ヨリ繼續シ大小裸麥各三品種ヲ同一地ニ同一栽培法ヲ行ヒ一定時期ニ於テ其

生育狀況ヲ調査シ其成績ヲ毎回累年ト比較對照シ其年次ニ於ケル豐凶ヲ豫想シ是レヲ其筋ニ報告ス

- 供試品種
- 大麥 白瀧、五畝四石、九升坊
- 小麥 寶滿、保津、白坊主
- 裸麥 屋根裸、鎌折、小首
- 參考 ゴールデンメロン

春分期ニ於ケル作況

豐凶考照試驗ノ麥類ハ全部十一月十九日ニ播種シ何レモ十二月二日稍々整一ニ發芽セリ一月及ビ二月中旬頃ニ至ル間ノ氣候寒冷著シク爲メニ生育頓ニ遅レタリ然シテ二月中旬以後三月ニ至リ暖氣大ニ加ハリ伸長ヲ促進セリ

今春分當日ノ調査ノ結果ヲ表示スレバ次ノ如シ

試驗別	大正三年度		前年		前十二ヶ年平均		前年比較増減		前十三年比較増減	
	草丈	一尺間莖數	草丈	一尺間莖數	草丈	一尺間莖數	草丈	一尺間莖數	草丈	一尺間莖數
裸麥 三種平均	八・九三	六五・〇	七・三三	九一・七	七・六	八三・八	一・六三	△二・六七	一・二三	△一・八八
大麥 三種平均	八・三三	七四・七	七・二二	八一・八	七・六	九六・五	一・一三	△一・五	〇・七三	△一・四〇
小麥 三種平均	一〇・八〇	八六・八	七・六	九四・八	七・九	七八・三	三・三〇	△八・〇	二・九〇	八・五

△印ハ減トス

立夏期ニ於ケル作況

春分當日ヨリ立夏前日ニ至ル期間ノ氣候ハ稍々寒冷ニシテ不順ナリキ即チ氣温ハ平均十四度最高十七度九最低六度ニシテ之レヲ前年ニ比スレバ氣温一度九最高二度最低一度二何レモ低シ更ラニ是レヲ前

十一ヶ年平均ニ比スレバ氣温ハ一度二最高零度九最低零度二何レモ低シトス亦此期間ニ於ケル日照時間ハ二百三十六時三十六分ニシテ降雨日數十七日雨量百六十五耗ニトス是レヲ前年ニ比スレバ日照時間二十五時間少ク雨天日數一日雨量ハ十五耗九何レモ少シトス今亦是レヲ前十一ヶ年ニ比スレバ日照時間三十五時三十五分間少ク雨天日數ハ一日半ヲ増セドモ雨量ハ六十九耗八少シトス而シテ地温ハ十三度四ニシテ前年ニ比シ零度一高ク前十一ヶ年ニ比スレバ一度二低シトス
春分當時氣温俄カニ上昇シ加フルニ降雨頻繁ナリシ結果一時軟弱ナル生育ナシ徒長スルノ傾向アリシモ其後氣温ノ低下セルト日照時ノ減少トニヨリ生育大ニ遅レ且ツ整一ナラス從テ出穂期ハ大ニ遅ル、ニ至レリ即チ豐凶考照試驗ノ出穂ハ大麥ハ五月四日裸麥ハ四月二十九日ニシテ小麥ハ當時出穂中ニシテ之レ亦五、六日間遅ル要スルニ本年ノ麥作ハ一般不良ニシテ成熟又一週間遅ル
今本期ニ於ケル出穂期ヲ表示セバ次ノ如シ

種別	大正三年		前年		前十二ヶ年平均		前年比較		前十二ヶ年比較	
	日	度	日	度	日	度	日	度	日	度
大麥 三種平均	五月四日	四月二十九日	四月二十九日	四月二十九日	同	同	同	同	同	同
小麥 同	五月十三日	五月九日	五月三日	五月三日	同	同	同	同	同	同
裸麥 同	四月二十九日	四月二十四日	四月二十一日	四月二十一日	同	同	同	同	同	同

大暑期ニ於ケル作況

本年度麥生育期間中ハ天候頗ル不良即チ下種當時ハ寒冷ニ失シ二月下旬以後春分時迄ハ氣温俄カニ上昇シ之レガ爲メ軟弱ナル生育ヲナシ其ノ後再ビ氣温低下シ且ツ日照時間少ク爲メニ一般生育遅レ出穂又五、六日間遅ル、ニ至レリ而シテ出穂後開花時ニ於テ降雨頻繁且ツ暴風ノタメニ殆ンド倒伏シ收穫

時ニ至リ天候恢復セシモ倒伏セシ爲メ稔實充分ナラズ從テ一升重量甚ダシク輕シ即チ收量ハ前年ニ比シ裸麥四割四分八厘、大麥三割九分八厘、小麥一割八分九厘、何レモ減シ前十一ヶ年ニ比シ裸麥一割一分四厘、大麥一割八分八厘、小麥九分四厘ヲ減ゼリ
 今一反歩當收量并ニ前年トノ比較ヲ示セバ左ノ如シ

種別	大正三年度		前年度		前十一ヶ年平均		前年比較増減		前十一ヶ年比較増減	
	收量	一升重量	收量	一升重量	收量	一升重量	收量	一升重量	收量	一升重量
裸麥 三種平均	一・五六四	三九六	二・八三二	三八一	一・七六七	三六六	△	二・五〇三	△	一・〇
大麥 三種平均	二・〇八五	二六六	三・四六八	二八七	二・五六八	二八〇	△	二・四八三	△	一・四
小麥 三種平均	一・八八六	三四八	二・三二五	三五九	一・八七五	三四七	△	一・七七七	△	一
參考 ゴールデンメロン	二・〇七〇	三〇〇	三・八四四	三一六	二・八四三	三三二	△	一・七七四	△	三二

△印ハ減トス
 二、品種試験

本試験ハ從來ノ試験成績ニヨリ撰定シタル優良種大麥培取裸麥屋根裸小麥實滿ヲ標準トシテ更ラニ各地ニ就キ蒐集シタル大麥十九種、小麥二十八種、裸麥二十九種ヲ試作シテ成績良好ナルモノヲ撰拔シ以テ府下ニ適スル良種ヲ得ントスルモノニシテ其内主ナルモノヲ擧グレバ次ノ如シ

品種名	出穂期	收穫期	大麥ノ部		種子取寄地	備考
			當一反歩收量	重一量升		
三 重	五月五日	六月八日	二・一六九	二六六	畿内支場	
愛宕第一號	五月六日	六月九日	二・六五四	二六九	愛宕郡	

裸麥ノ部

品種名	出穂期	收穫期	大麥ノ部		種子取寄地	備考
			當一反歩收量	重一量升		
同 第二號	五月七日	六月十日	二・四四〇	二五二	同 長野縣	
倍 取	同	同	二・九四八	二六八	同 長野縣	
北 桑毛	五月九日	同	二・八〇三	二五九	同 北桑田郡	
川 北	五月九日	同	二・四五二	二六三	同 北桑田郡	
白 麥	五月八日	同	二・八四一	二六四	同 南桑田郡	
大 芒變	五月十一日	六月十一日	二・一七六	二七三	同 當場撰出	
八 石	五月九日	六月十日	二・五六三	二六八	同 當場撰出	
與 謝在	五月五日	同	二・三三五	二六六	同 與謝郡	
十 條	五月八日	六月十一日	二・七六三	二六六	同 與謝郡	
神 宮寺	五月十二日	同	一・八〇二	二五八	同 畿内支場	
ハ ンナ	五月十三日	六月十三日	二・五一一	二八六	同 北海道農事試験場	
雜 第三號	四月二十七日	六月一日	二・六二四	三一	同 畿内支場	
同 第三十一號	同	五月三十日	二・四五六	二五九	同 同	
同 三十九號	同	六月七日	二・〇〇三	三一六	同 同	
ゴ ールドトルベ	五月八日	六月十日	二・六三七	二五六	同 大日本麥酒會社	

品名	出穂期	收穫期	收當一反歩	升重	秤量	種子取寄地	備考
青野	四月二十八日	六月十日	一・七一五	三五五	七八・〇〇〇	竹野	
高野	四月二十七日	六月九日	一・六九二	三六〇	六九・〇〇〇	長野	
伊勢	四月三十日	六月十日	一・四一九	三五五	六一・五〇〇	内支場	
於染	同	同	一・四九二	三五八	六九・〇〇〇	同	
愛宕	四月二十八日	六月十一日	一・八〇〇	三七五	七八・〇〇〇	愛宕	
白五郎	五月一日	六月十二日	一・七六六	三五五	六九・〇〇〇	乙訓	
青谷	四月三十日	六月十一日	一・八五四	三五六	八四・〇〇〇	綴喜	
雜百九十七號	四月二十九日	六月七日	一・六六五	三二八	七二・〇〇〇	内支場	
小麥ノ部							
穂野	五月九日	六月十三日	一・七四四	三四四	一三六・五〇〇	内支場	
竹野	五月八日	六月十四日	一・七六七	三四三	一五七・五〇〇	竹野	
與謝	同	六月二十日	一・七八五	三三一	一六五・〇〇〇	與謝	
谷光	同	六月十三日	一・八九七	三四八	一八三・〇〇〇	加佐	
何鹿	五月七日	同	二・〇九四	三五二	一二四・五〇〇	何鹿	
綴喜	五月十日	六月十四日	二・〇六八	三三二	一六三・五〇〇	綴喜	
久世	五月十一日	六月十七日	一・六九四	三四〇	一六〇・五〇〇	久世	
和歌	五月九日	六月十三日	二・一八一	三二六	一六〇・五〇〇	内支場	
船井	五月十一日	六月十四日	二・一四九	三〇三	一八〇・〇〇〇	船井	

品名	出穂期	收穫期	收當一反歩	升重	秤量	種子取寄地	備考
膝八	四月二十九日	六月十一日	一・六八八	三五九	八一・〇〇〇	同	
鎌折	四月二十八日	六月八日	一・六八八	三六八	七五・〇〇〇	同	
釜麥	四月二十七日	同	一・六四四	三五二	七二・〇〇〇	同	
橋倉	四月二十六日	同	一・七一三	三六六	七二・〇〇〇	同	
紅梅	四月二十七日	六月十一日	一・五四三	三三三	七二・〇〇〇	同	
愛宕	四月二十八日	同	一・八〇三	三六六	八一・〇〇〇	同	
同	同	六月十日	一・七二〇	三六一	七八・〇〇〇	同	
八石	四月二十九日	同	一・九五三	三五八	九六・〇〇〇	同	
一本	四月二十八日	六月十一日	二・〇三三	三六六	九九・〇〇〇	同	
コペンカダゲ	五月一日	六月十二日	一・八八六	三四二	七二・〇〇〇	同	
紀伊	四月二十七日	六月八日	二・一四九	三五六	七八・〇〇〇	紀伊	
久世	五月一日	六月十日	一・七〇二	三六三	七二・〇〇〇	久世	
神子	同	同	一・六四二	三四九	六三・〇〇〇	同	
八寸	四月三十日	六月十二日	一・七六〇	三六三	七五・〇〇〇	同	
甲崎	同	六月十一日	一・六三四	三五八	六九・〇〇〇	同	
鬼佐	四月二十九日	六月九日	二・〇二八	三四九	八一・〇〇〇	同	
加佐	五月一日	六月十一日	一・五九二	三六三	七二・〇〇〇	同	
小首	四月二十九日	六月十日	一・七七一	三五三	七二・〇〇〇	同	
與謝	四月二十七日	六月十一日	一・五一一	三三六	六三・〇〇〇	同	

品 種 名	出 穂 期	收 穫 期	當一反歩 收 量	玄米一 升重量	秤 量	種 子 取 寄 地	備 考
早 肥 後	五月十一日	六月十四日	一九一九	三四四	一五六・〇〇〇	北 桑 田 郡	
愛 宕 二 號	五月十二日	六月十七日	一七七六	三二一	一三五・〇〇〇	南 桑 田 郡	
同 三 號	五月十三日	六月二十日	一三五〇	三二九	一三四・五〇〇	愛 宕 郡	
フ ル ツ	五月十七日	六月二十一日	一〇八〇	三三六	一六九・五〇〇	同	
オ レ ゴ ン	五月十九日	六月二十一日	一・一三七	三八〇	二〇四・〇〇〇	同	
ベルベツトチャープ	五月二十一日	六月二十一日	一・一四	三三四	一八六・〇〇〇	同	
プラユーステム	五月十七日	六月二十日	〇・六〇六	三二〇	一五六・〇〇〇	同	
雜 二 八 號	五月四日	六月十日	一・四六五	三四〇	二二一・〇〇〇	同	
同 五 號	五月九日	同	一・五七四	三四三	一三三・五〇〇	同	
同 二 七 號	五月五日	同	一・七二〇	三六四	一六三・五〇〇	同	
同 二 號	五月七日	五月十一日	一・五四四	三三八	一四二・五〇〇	同	
同 九 號	五月六日	五月九日	一・三〇五	三四四	一三〇・五〇〇	同	
			一・四七〇	三〇七	一四七・〇〇〇	同	

三、深耕ト肥料用量試驗

耕地耕勸ノ深淺ニ對シ肥料ノ用量ヲ異ニスルニ於テ耕地ノ性質ニ如何ナル變化ヲ來シ麥作ニ如何ナル影響アルヤヲ知り且ツ肥料ノ得失ヲ知ラントスルモノナリ
今是レガ試驗成績ヲ示セバ左ノ如シ

試驗 區 名 當 反 收 量 一 升 重 量 當 一 反 歩 秤 量 備 考

少 肥 普 通 耕	一・三三六	三六八	五四・〇〇〇	
同 一 寸 深 耕	一・四一二	三六四	五五・〇〇〇	
同 二 寸 深 耕	一・三九〇	三六四	五六・〇〇〇	
多 肥 普 通 耕	一・二二六	三五七	九〇・〇〇〇	
同 一 寸 深 耕	一・六七三	三四九	九四・〇〇〇	
同 二 寸 深 耕	一・六五八	三五四	九〇・〇〇〇	

四、石灰窒素連用試驗
多肥區ハ少肥區ニ優リ一寸深耕最モ收量多シ
同一地ニ石灰窒素ヲ各作連用スルトキニ於ケル石灰窒素ノ肥効ヲ永年ニ亘リ驗セントスルモノナリ

試驗ヲ分チテ左ノ六區トス	第一區	第二區	第三區	第四區	第五區	第六區
硫酸アンモニヤ	甲	乙	甲	乙	甲	乙
過磷酸石灰	配合	配合	配合	配合	配合	配合
木 灰	配合	配合	配合	配合	配合	配合
硫酸加里	配合	配合	配合	配合	配合	配合
木 灰	配合	配合	配合	配合	配合	配合
木 灰	配合	配合	配合	配合	配合	配合

第六區ヲ除ク外發芽ハ整正ニシテ善ク成熟ハ第一區ヨリ第三區ニ至ル迄ハ稍々整ナルモ他ハ不整ナリ
稈長ハ第二區ヲ最高トシ第一區三區是レニ次ギ第四第六及ビ第五區ト順次高サヲ減ズ收量ニ付其結果
ヲ掲グレバ硫酸安母尼亞區最良ニシテ石灰窒素ハ劣ルヲ見ル其大要ノ成績ヲ掲グレバ次ノ如シ

試驗區名	反當收量	一升重量	當一反步程量	備考
一、硫酸アンモニヤ 甲	石 一・四二五	三三一	七二・〇〇〇	
二、同 乙	一・二六四	三四四	六六・〇〇〇	
三、石灰窒素 甲	九四〇	三四八	四八・〇〇〇	
四、同 乙	九九一	三五二	四八・〇〇〇	
五、無窒素 甲	五一一	三五〇	四八・〇〇〇	
六、同 乙	五〇〇	三七二	一八・六〇〇	

右成蹟ニ依レバ稻作ト反對ニ硫酸安母尼亞區良好ニシテ石灰窒素區ハ是ニ次グ

五、石灰窒素殘効試驗

水稻ニ於ケル石灰窒素効果比較試驗區ノ趾地ニ於ケル殘効ヲ知ランガ爲メ普通栽培法ニヨリ麥作ヲ行ヒ併セテ水稻試驗ノ參考ニ資セントスルモノニシテ左記ノ四區ニ分チテ行フ

- 第一區 硫酸安母尼亞 甲 過磷酸石灰 木 灰 配合
- 第二區 同 乙 同 硫酸加里 配合
- 第三區 石灰窒素 甲 同 木 灰 配合
- 第四區 同 乙 同 硫酸加里 配合

今是レガ成蹟ノ大要ヲ掲グレバ次ノ如シ

試驗區名	當反收量	一升重量	當一反步程量	備考
一、硫酸安母尼亞 甲	石 一・四九〇	三六一	六五・七〇〇	
二、同 乙	一・三八〇	三六三	六六・〇〇〇	
三、石灰窒素 甲	一・五〇〇	三五八	六九・〇〇〇	
四、同 乙	一・四一〇	三五二	五四・〇〇〇	

右ノ成蹟ニヨレバ石灰窒素甲區最モ佳良ナルガ如シ

六、石灰窒素施用法試驗

石灰窒素施用ノ時期ト方法ニ付キテ研究シ麥作ニ好適シ而モ應用シ易キ施用法ヲ查知セントス
石灰窒素ハ下種栽植ノ際施用スルトキハ有害作用ヲ呈スルヲ以テ是レヲ避ケンガ爲メ二週日前施スヲ至當トセラレタリ然ルニ本府大部分ノ麥作ハ水田裏作ニシテ前後作ノ期間短ク是レガ施用ノ方法ヲ研究シ其ノ期日ヲ短縮シ得ル法ヲ案ズルニアラザレバ未ダ一般ニ施用セラル、ニ至タルヤ難シ然ルニ本肥料ハ將來廣ク使用セラル、ニ至タルベキ窒素肥料ナルベキヲ以テ之レガ施用法ヲ知ルハ目下ノ急務ナリトス

本試驗ニ於ケル本年度ノ成蹟左ノ如シ

試驗區名	當反收量	一升重量	當一反步程量	備考
一、二週間前ニ施ス	石 一・四四〇	三五八	四〇・五〇〇	
二、二週間堆肥ニ混ズ	一・〇二七	三三六	四〇・二〇〇	
三、石灰窒素ヲ施サズ	一・〇一六	三六九	三〇・〇〇〇	
四、一週日前施ス	・八七五	三六〇	二七・〇〇〇	
五、一週間堆肥ニ混ズ	・五七一	三六八	二四・〇〇〇	
參考 當日施ス	・九八三	三五二	三四・五〇〇	

二週間前畦上ニ施シタルモノ收量最モ多ク二週間堆肥ニ混ジタルモノ是レニ次グヲ見ルベシ
七、畦形對播種法試驗

畦立ノ方法并ニ播種法ノ異ナルニ從ヒテ其生育收量ニ及ボス關係ヲ驗セントスルモノニシテ普通法高畦法(甲)高畦法平播(乙)及普通平播法ノ四區ニ分チ行ヘルガ收量ハ普通法收量最モ多シ供試品種ハ大麥培取裸麥屋根裸トス

試驗區名	反當收量	一升重量	當一反步程量	備考
普通法 (甲)	二・三六二	二七六	六八・〇〇〇	
高畦法 (甲)	一・七一三	三五六	七二・〇〇〇	
高畦法 (乙)	二・二七三	二六四	六六・〇〇〇	
高畦平播法 (乙)	一・六〇一	三五六	七八・〇〇〇	
普通平播法 (乙)	二・二九二	二七四	一〇五・〇〇〇	
普通平播法 (乙)	一・五二六	三六一	四六・〇〇〇	
普通平播法 (乙)	二・二一〇	二八六	六五・〇〇〇	
普通平播法 (乙)	一・四七〇	三六六	五九・〇〇〇	

右ノ成績ニヨレバ普通法甲最モ良好ニシテ條播ハ平播法ニ優ルヲ見ル
八、石灰窒素效果試驗

麥作ニ石灰窒素ヲ施用シテ其效果ヲ驗知セントス而シテ硫酸安母尼亞ト比較セントスルモノニシテ左記ノ四區ニ分チテ行フ

第一區 石灰窒素 甲 過磷酸石灰 硫酸加里 配合
 第二區 同 乙 同 木 灰 同

第三區 硫酸安母尼亞 甲 同 硫酸加里 同
 第四區 同 乙 同 木 灰 同
 今是レガ大要ノ成績ヲ示セバ左ノ如シ

試驗區名	反當收量	一升重量	當一反步程量	備考
一、石灰窒素 甲	一・四七九	三六一	六五・七〇〇	
二、同 乙	一・三八〇	三六三	六六・〇〇〇	
三、硫酸安母尼亞 甲	一・五〇〇	三五八	六九・〇〇〇	
四、同 乙	一・四一〇	三五二	五四・〇〇〇	

右ノ成績ニヨレバ硫酸安母尼亞區ノ優ルヲ見ル

九、磷酸肥効比較試驗
麥作ニ付有機性及ビ無機性磷酸肥料ノ肥効ヲ知ラントス
今是レガ成績ノ大要ヲ示セバ次ノ如シ

試驗區名	反當收量	一升重量	當一反步程量	備考
一、過磷酸石灰	一・九八三	三五四	七四・〇〇〇	
二、蒸製骨粉	一・六五八	三五二	七六・〇〇〇	
三、粗製骨粉	一・六二四	三五六	八六・〇〇〇	
四、無磷酸區	一・四八九	三六〇	六八・〇〇〇	

過磷酸石灰區良好ニシテ蒸製骨粉及粗製骨粉順次是レニ次グ
 十、同價肥料試驗

現今府下各地ニ各種ノ人造肥料及其他ノ肥料ヲ使用セラレツ、アリ而シテ各々價格及其特徴ニ甲、乙
 アルヲ免レズ依而何レモ堆肥百五十貫匁ヲ施シ是レニ各種肥料ノ同價量ヲ與ヘ以テ其ノ優劣ヲ定メン
 トス供試肥料ハ反當七圓トセリ供試肥料名並ニ各種肥料價及ビ是レガ反當施用量ヲ示セバ左ノ如シ

肥料品種名	肥料代價	反當施肥量	備考
菜種粉末	二・三六〇	二・三・四三〇	
支那產菜種粕	二・三五〇	二・三・四三〇	
大豆粕	三・〇〇〇	一・八・七八〇	
硫酸アンモニヤ	六・五〇〇	八・三七〇	
麥肥	二・五〇〇	二・七・八四〇	
別製麥肥	二・五〇〇	二・七・八四〇	
印九重肥	四・〇〇〇	一・六・七一〇	
印多木肥	三・二〇〇	二・二・二六〇	
完全大和肥	三・五五〇	一・八・七八〇	
菊號完全肥料	三・二〇〇	二・二・二六〇	

附記 肥料價格ハ當場附近賣買價トス
 今是レガ本年度ニ於ケル成績ノ大要ヲ示セバ次ノ如シ

試驗區名	反當收量	一升重量	當一反步程量	備考
菜種粉末	一・九一六	二七四	六六・〇〇〇	
支那產菜種粕	一・八六〇	二七一	八七・〇〇〇	
大豆粕	一・八六九	二六八	七五・〇〇〇	
硫酸アンモニヤ	二・二九九	二六一	九〇・〇〇〇	
麥肥	二・一六五	二六六	八五・〇〇〇	
別製麥肥	一・九七八	二七〇	八二・五〇〇	
印九重肥	二・三〇〇	二六六	八一・〇〇〇	
印多木肥	二・二七八	二七〇	七八・〇〇〇	
完全大和肥	一・七三七	二六六	七二・〇〇〇	
菊號完全肥料	一・七〇二	二八二	六九・〇〇〇	

右成績ニ依テ觀レバル印九重肥料最モ佳ニシテ硫酸アンモニヤ印多木肥料順次是レニ次グ

(三) 稻麥ニ關スル調査事項

一、稻麥特性調査
 當場試作ノ各品種稻ハ一本植麥ハ一粒蒔トシ發芽後收穫ニ至ル迄ノ生育狀況及ヒ收穫後ノ種實稈程ニ
 付地方農事試驗場會議ニ於テ協定セル式ニ準據シ詳細ナル調査ヲナシタリ

二、分蘗力調査
 大小裸各品種ヲ一粒蒔トシ之レガ分蘗力ヲ調査シ播種量ノ參考ニ供スルト同時ニ劣等株ヲ排除シ以テ

明年度品種試験用種子ニ供セリ

(四) 見本試作

蔬菜及果樹類ニ付内外ノ優良品種ヲ蒐集シ模範作トシテ一定面積内ニ於ケル輪作法ノ研究並ニ病虫害驅除豫防ノ範ヲ示セリ又薬用工藝用庭園用木ヲ蒐集シ參觀者ノ参考ニ供シ尙ホ採種シ得ラル、モノハ採種シ隨時希望者ニ配布セリ

委託試験

左記九ヶ所ヲ撰定シ前年度ニ引續キ施行セシメタリ今其成績ノ大要ヲ掲グレバ左ノ如シ
 一、山城紀伊郡東九條村
 目的 肥沃地ニシテ年々出來過ギテ來タシ病虫害ノ發生多キ地ニ適スル良品種ヲ發見セントス
 其成績

品名	種類	成熟期	當一反歩收量	將來ノ見込
神力	狸千	十一月二十日	三・二〇〇	有望
八本	重穗	同	三・〇〇〇	小粒ニ失ス
白旭	同	同	二・九五〇	有望
龜治	同	十一月十五日	三・〇〇〇	有望
小丸	同	十一月十八日	二・八〇〇	倒伏スルノ缺點アリ
			三・二〇〇	小粒ニ失ス

竹篠原成
 町屋糯同
 中生神力
 十月二十八日
 二・九〇〇
 二・八〇〇
 二・九〇〇
 二・八〇〇
 委託者 烏居梅太郎

二、北桑田郡山國村
 目的 其地方ニ好適スル良品種ヲ發見セントス
 其成績

品名	種類	成熟期	當一反歩收量	將來ノ見込
有岡	着山	九月二十五日	二・五五〇	有望ナリ
福山	錦山	十月十日	二・六五〇	有望
伊勢	同	同	二・八〇〇	有望
上林	同	十月十三日	三・一〇〇	同
朝日	同	同	二・六〇〇	同
中生	力日	十月二十五日	三・二五〇	有望ナリ
雜中	號二	同	三・二〇〇	同
八重	同	同	二・七五〇	同
長者	同	十月二十三日	三・〇〇〇	有望ナリ

三、南桑田郡吉川村
目的前同斷

委托者 美馬 俵吉

品種名	成熟期	當一反步收量	將來ノ見込
福山	十月二十三日	二・九〇〇 <small>石</small>	小粒ニシテ倒伏シ易ク見込ナシ
伊勢山	十月十三日	三・三五〇	有 望
大和山	十月二十三日	三・八五〇	同
米山	同	三・七五〇	同
都山	十月二十八日	三・八五〇	同
雜中	同	三・三五〇	小粒ナルノ缺點アリ
月本	同	三・八五〇	有望ナリ
箱崎	十一月一日	三・二〇〇	見込少シ
中生	十一月八日	四・一〇〇	有望ナリ
雄町	十一月一日	四・〇〇〇	同

四、船井郡須知町
目的前同斷

委托者 澤田 吉次郎

品種名	成熟期	當一反步收量	將來ノ見込
大場	九月二十二日	二・〇〇五	見込ナシ
萬倍	十月七日	二・二四八	有望ナリ
福山	十月十日	二・三〇四	同
大和	同	二・二六二	同
雜中	十月十五日	二・三〇九	同
東京	十月二十五日	二・二三四	同
中都	十月二十三日	二・三六五	同
中生	同	二・三六六	同
雄町	十一月一日	二・三三四	同

五、天田郡
目的前同斷

委托者 足立 鈔太郎

品種名	成熟期	當一反步收量	將來ノ見込
信州金子	九月二十五日	二・四六〇 <small>石</small>	有望ナリ
巾着	十月七日	二・三五〇	見込少シ
雜中	十月二十七日	三・二一〇	有望ナリ
米山	十月十日	二・九〇〇	同
日本	十一月三日	三・四二〇	同
朝日	十月二十一日	二・六四〇	見込ナシ

品名	成熟期	當一反步收量	將來ノ見込
品名	成熟期	當一反步收量	將來ノ見込
伊勢錦	十月二十七日	三・二〇〇	有望ナリ
戊申都	十一月一日	三・一七〇	同
八都重穂	十一月五日	三・二六〇	同
同	同	三・一五〇	同
有岡	九月二十日	二・二〇〇	同
中生有岡	十月五日	二・三八〇	同
伊勢錦	十月七日	二・二四〇	同
米山	十月二十四日	二・五六〇	同
雜中	十月十六日	二・〇五〇	同
大正	十一月三日	一・六〇〇	同
萬作	十月二十五日	二・二一〇	同
小畑	十月二十日	一・九〇〇	同
中生神	十月二十九日	二・三四〇	同

六、何鹿郡吉美村
目的 前同斷

委託者 大道好一

品名	成熟期	當一反步收量	將來ノ見込
品名	成熟期	當一反步收量	將來ノ見込
大賀早稻	十月十日	一・九二〇	同
加賀早	同	一・九四〇	同
東京府	十月十二日	一・八六〇	同
西國	同	二・〇〇〇	同
伊勢錦	十月二十日	二・四〇〇	同
巾着山	十月十八日	二・二五〇	同
福山	十月三十日	二・二〇〇	同
雜中	同	二・五〇〇	同
有岡	十月十日	一・七四〇	同

七、與謝郡世屋村
目的 前同斷

委託者 吉岡作造

與謝郡上宮津村

委託者 武名喜藏

品名	成熟期	當一反步收量	將來ノ見込
品名	成熟期	當一反步收量	將來ノ見込
雜早三號	十月二十一日	二・三五〇	有望

品名	成熟期	當一反步收量	將來ノ見込
品種名	成熟期	當一反步收量	將來ノ見込
同箱五八號	十月三十日	二・六二〇	將
箱崎	十一月三日	二・七八〇	來
福山	十月二十二日	二・六〇〇	ノ
米山	同	二・八〇〇	見
蛭子	同	二・三〇〇	込
神力	十一月五日	三・〇〇〇	
八穗	同	二・七〇〇	
龜重	同	二・五六〇	
委託者 竹野郡農會 同農事試驗場			
品種名	成熟期	當一反步收量	將來ノ見込
大場	九月二十五日	二・四五六	將
巾着	十月六日	二・三五九	來
野村	十月十三日	一・九六六	ノ
雜號	十一月一日	二・二三六	見
福山	十月十九日	二・一六五	込
朝日	同	二・二五九	

品名	成熟期	當一反步收量	將來ノ見込
品種名	成熟期	當一反步收量	將來ノ見込
芋野方	十一月二日	二・三三四	將
西寺	十一月九日	二・三四八	來
龜次	十一月六日	二・二二五	ノ
米山	十月十八日	二・一七一	見
委託者 加佐郡農會			
有岡	九月二十八日	一・二七五	將
福山	十月十七日	一・七八〇	來
箱崎	十月二十六日	一・二九〇	ノ
雜號	同	一・三〇〇	見
雄町	十月二十七日	一・三二〇	込
巾着	十月十八日	一・二八〇	
竹成	十月二十九日	一・三三〇	
大夫出	十月二十三日	一・三四〇	
大坂	十月二十日	一・三五〇	
龜次	十月二十四日	一・二六〇	
中生	九月十七日	一・三六〇	
佐賀	十月二十五日	一・三四〇	
委託者 加佐郡農會			

養 鶏

名古屋交趾、白色レツグホーン、横斑ブリモースロック、黒色ミノルカ、吐綬鶏等二百羽内外ヲ飼育シ
常ニ種卵トシテ希望者ニ配布シ雛ヲ孵化セシメ希望者ニ相當代價ヲ以テ目下配布シツ、アリ

病虫ニ關スル試験

(一) ゴールデンメロン新病害豫防試験

近時「ゴールデンメロン」ノ發芽後四五寸ニ伸ビルヤ葉先黃變シ始メ漸次莖葉ヲ犯シテ遂ニ株全體ニ
及ブ其生育ヲ阻害スルコト尠カラズ昨冬豫備トシテ藥劑ヲ撒布シ空氣傳染ヲ防ギタルモ其効顯著ナラ
ザリキ依テ土壤消毒ニヨリ之ガ病害ヲ防除セントス

但土壤及種子ハ共ニ昨年病害激甚ナリシ地區ノモノヲ用ヒ一區貳圓筒ヲ以テ試験ヲ施行セリ

- 第一、標準區
- 第二、石灰施與區 消石灰 反當 百五十貫目
- 第三、石灰窒素施與區 反當 二十四貫目
- 第四、二硫化炭素區 千立方尺當 五磅
- 第五、フォルマリン區 坪當 半磅
- 第六、硫黃區 反當 十貫目
- 第七、燒土區
- 第八、冷水温湯浸法區
- 第九、木灰區 反當 五十貫目

第十、鹽水撰淨種區

試験ノ結果ニヨレバ燒土區ハ燒土ノ際温度高カリシ爲メカ多少發芽ヲ害シタルモ其後成績最モ優良ニ
シテ發病セズ之ニ亞ギテ木灰區、二硫化炭素區稍々良好ナルモ他區ト同様發病ハ免レザリキ

(二) 麥類異穗病豫防試験

府下ノ麥類ニシテ黑穗病害ヲ受クルモノ尠カラズ依テ之ガ豫防驅除法ヲ研メントスルモノニシテ馬糧
大麥ヲ用ヒ各區二坪宛十區ヲ以テ試験ス

- 第一、標準區
- 第二、鹽水撰種
- 第三、灰汁浸漬區 木灰 一升 二十四時間浸漬
- 第四、同 木灰 二升 同
- 第五、冷水温湯浸法區 水 一升 同
- 第六、フォルマリン一%區 水 二升 同
- 第七、同 同 同
- 第八、過滿俺含酸加里一%區 同 同
- 第九、鹽化石灰 三%區 同 同

試験ノ結果ニヨレバ冷水温湯浸法區最モ優良ニシテ一株トシテ黑穗ヲ生ゼルモノナシト雖モ收量ニ於
テ僅カニ減少セリ

(三) 冷水温湯浸法試験

冷水温湯浸法ハ麥類ノ黑穗病斑葉病等ノ防除ニ有効ナルヲ以テ之ニ就キ最モ優良ナル方法ヲ知ラント
スルモノニシテ大麥白瀧ヲ用ヒ各區二坪宛ヲ以テ試験ス

イ、乾燥法試験

- 第一、無豫防區
- 第二、冷却後陰乾區
- 第三、同 陽乾區
- 第四、同 乾燥セズ
- 第五、冷却セズ陰乾
- 第六、同 陽乾
- 第七、同 乾燥セズ

本試験ノ結果ニヨレバ冷却セズ陰乾セルモノ收量最モ多ク之ニ亞ギテ無豫防區冷却後陰乾ノ二區共ニ成績佳良ナリ而シテ黑穂ハ無豫防區ニ於テ僅カニ顯ハレシノミ

ロ、浸水試験

- 第一、二時間浸水區
 - 第二、五時間浸水區
 - 第三、七時間浸水區
 - 第四、十時間浸水區
 - 第五、十五時間浸水區
 - 第六、二十時間浸水區
- 本試験ノ結果ハ錯雜シテ充分區別シ難シ
- ハ、浸湯試験
 - 第一、百三十度 一分間浸漬

- 第二、同 三分間浸漬
 - 第三、同 五分間浸漬
 - 第四、同 七分間浸漬
 - 第五、同 九分間浸漬
- 本試験ノ結果ニヨレバ五七分間浸湯區收量最モ多シ
- (四) 稻播種量並ニ一株本數ト螟虫被害トノ關係試験
- 播種量並ニ一株本數ト螟虫被害トノ關係ニツキ知ラントスルモノニシテ苗代ニ於ケル播種量ヲ坪一合ヨリ五合迄トナシ日ニ卵塊ヲ全部採集シ之ヲ本田ニ一本及三本ノ割ニ移植シ五日目毎ニ被害莖ヲ拔キ取リタリ

苗代ノ部

- 第一、坪一合蒔
 - 第二、坪二合蒔
 - 第三、坪三合蒔
 - 第四、坪四合蒔
 - 第五、坪五合蒔
- 本試験ノ結果ニヨレバ一合蒔ニ於テ稍々多キ觀アルモ大ナル差違ナキモノ、如シ
- 本田ノ部 (苗ノ都合ニヨリ一合蒔省畧)
- 第一、二合蒔一本植
 - 第二、同 三本植

- 第三、三合蒔一本植
- 第四、同 三本植
- 第五、四合蒔一本植
- 第六、同 三本植
- 第七、五合蒔一本植
- 第八、同 三本植

(五) 本試驗ノ結果ニヨリ總螟虫數ヲ比較スルニ各播種量共三本植ノ方一本植ニ比シ被害大ナリ

(五) 稻作病害豫防藥劑撒布試驗

砂糖ボルドウ液撒布ニヨリテ病害ヲ豫防シ併セテ被害狀況ヲ調査セントス

伊勢錦ヲ用ヒ各區十坪宛穂孕前三斗式砂糖ボルドウ二回撒布區及三回撒布區ノ二區ニ分テ試驗ヲ施行シタルモ標準區ニ於テ發病ナキ爲メ遂ニ其效果ヲ知ルヲ得ザリキ然レドモ作物ニハ何等被害ヲ認メズ

(六) 胡瓜露菌病試驗

胡瓜ノ露菌病ヲ防除シ得ル完全ナル藥劑ヲ知ラントスルモノニシテ其試驗區別左ノ如シ

- 第一、標準區
- 第二、三斗式石灰ボルドウ液
- 第三、二斗五升式石灰ボルドウ液
- 第四、濃厚式石灰硫黃合劑 五十倍液
- 第五、同 八十倍液
- 第六、同 百倍液
- 第七、硫黃華

第八、膠加用硫黃華

藥劑撒布回数ハ總テ四回トス

本試驗ノ結果ニヨレバ二斗五升式及三斗式石灰ボルドウ液成績最モ佳良ナリ

(七) 竹自然枯病豫防試驗

本試驗ハ乙訓郡乙訓村ニ於テ明治四十三年十一月ヨリ繼續施行スルモノニシテ總面積五畝歩ヲ十區ニ區別シ各區ヲ十五歩トシ左ノ區別ニ於テ之ヲ行フ

區別 試驗別

- 第一 無肥料區
- 第二 普通肥料區
- 第三 窒素多量施與區
- 第四 同 上
- 第五 磷酸多量施與區
- 第六 加里多量施與區
- 第七 石灰施與區
- 第八 苦土施與區
- 第九 二回斷根區
- 第十 四回斷根區

但シ斷根區ハ二區共未ダ一回モ斷根セザルヲ以テ普通肥料區ト同様ニ認メ得

從來ノ試驗成績ニヨレバ加里多量施與區最モ優良ニシテ窒素多量施與區無肥料區及普通肥料區ノ四區之ニ亞ギテ成績佳良ナリ之ニ反シ磷酸多量施與區ハ被害頗ル激甚ニシテ石灰施與區四回斷根苦土施與

區又成績不良ナリ唯二回斷根區ニ於テ稍々可ナルヲ認ム而シテ之等不良區ハ總テ日光殊ニ西南ヨリノ光線ニ浴スルコト多シ

之ヲ要スルニ本病ハ營養的關係ニヨリ大ニ影響ヲ受クルモノナルコトヲ認ム尙試驗續行中ナリ

(八) 竹病虫害調査

竹林ヲ犯シテ被害ヲ逞シクスル病虫害尠カラズ殊ニ病害トシテ府下ニ喧傳セラル、モノヲ自然枯病水枯病蔓自然枯病黑穗病竹蓆病等トナス虫害トシテハ筍ヲ犯ス「ハジマクチバ」孟宗竹ノ枝ヲ犯ス小蜂等其主ナルモノナリ

(九) 栗樹病虫害調査

栗病虫害ニツキテハ未ダ僅カニ知ラル、ノミ然ルニ近時丹波栗ノ枝幹ヲ劇シク犯シ遂ニ之ヲ黑變枯死セシムル一種激烈ナル病害漸次蔓延セントス調査ノ結果ニヨレバ幾多ノ原因アルモノ、如ク墨病、胴枯病類似ノモノナキニ非ザルモ未ダ同一物ナルヤ否ヤ判明シ難シ尙之ニ伴ヒ一種穿孔虫ノ被害又頗ル大ナルモノアリ漸次研究ノ歩ヲ進メントス

(十) 二化螟虫調査

- 一、發蛾時期調査
- 二、加害時期調査
- 三、越冬狀況調査

(十一) 害虫飼育

- 一、栗虫蛾

- 二、栗穿孔虫

- 三、栗豹紋蝶

- 四、コツノケムシ

圓筒試驗之部

冬 作

一、大麥ニ對スル試驗

1、三要素試驗

本場ノ如キ土壤ニ於テ三要素天然供給量ハ肥料ノ反應如何ニ依リテ異ナルベキヤ否ヤヲ知り併セテ三要素ノ何レニカ偏シタル場合ノ影響如何ヲ知ラムトスルモノニシテ各區圓筒宛十三區ヲ以テ試驗セリ其成績ニ依レバ本場ノ土壤ハ窒素ノ缺乏甚敷モ磷酸及加里ハ之ガ缺乏ヲ告グルコト少ナシ、而シテ肥料ノ反應ハ鹽基性ノ配合最モ良ク中性ノモノ之ニ次ギ酸性配合最モ劣レルヲ認ム

二、腐植質土壤三要素試驗

府下船井郡蒲生野腐植質土壤ノ三要素天然供給量ヲ知ラムトスルモノニシテ原土及石灰中和土ノ二種ノ土壤ヲ用ヒ各區圓筒宛無肥料、無磷酸、無加里、無窒素、完全肥料ノ五區ヲ設ケ試驗セリ其成績ニ依レバ原土區ハイヅレモ完全ニ發育セズシテ枯死スルニ至レリ

中和土區ニアリテハ完全肥料區最モ生育優良ニシテ無加里區無窒素區順次之ニ次ギ無磷酸區ハ生育最モ不良ニシテ無肥料區ニ劣ルヲ認ム

三、腐植質土壤石灰適量試驗

腐植質土壤(全酸度一二、〇%游離腐植酸一〇、〇二%)ニ對スル石灰ノ効果並ニ其ノ適量ヲ知ラムト

スルモノニシテ各區貳圓筒宛トシ無石灰、石灰反當三十貫匁加用、同五十貫匁加用、同百貫匁加用、同二百貫匁加用、同三百貫匁加用、同四百貫匁加用、同五百貫匁加用、同六百貫匁加用ノ九區ヲ設ケ試験セリ、其成績ニ依レバ大麥ニ對シテハ石灰反當三百貫匁加用區最モ優良ニシテ四百貫匁加用區及二百貫匁加用區、之ニ次ギ、反當四百貫匁以上ヲ施與スルトキハ反ツテ有害作用ヲ呈シ反當百貫匁以下ノ加用區ハ、石灰加用量少ナキニ從ヒ成績不良ナリ尙試験ヲ繼續シ確定セントス

四、亞硫酸アンモニヤ肥効試験

亞硫酸アンモニアト硫酸アンモニアトノ本場土壤ニ對スル肥効ヲ査定セムトスルモノニシテ各區貳圓筒宛五區ヲ以テ試験セリ其成績ニ依レバ亞硫酸アンモニア肥効ハ硫酸アンモニアト相伯仲セリ

一一、蠶豆ニ對スル試験

五、腐植質土壤磷酸適量試験（中和土）

腐植質ノ中和土ニ於ケル磷酸ノ適量ヲ査定セントスルモノニシテ各區貳圓筒宛無磷酸、磷酸反當二貫匁加用、同三貫匁加用、同四貫匁加用、同五貫匁加用ノ五區ヲ設ケ試験セリト雖モ未ダ成績不明ナルヲ以テ尙ホ繼續試験セムトス

六、腐植質土壤磷酸質肥料試験（中和土）

腐植質ノ中和土ニ對シ磷酸質肥料トシテ如何ナルモノ最モ適當ナルモノナルヤヲ知ラムトスルモノニシテ各區貳圓筒宛無磷酸區、及骨粉、過磷酸石灰、遠益磷肥、磷礦粉ノ四種磷酸肥料ノ各少施區並ニ多施區ノ九區ヲ設ケ蠶豆ヲ栽培セリ、本年度ノ創設ニシテ成績未ダ不明ナルヲ以テ尙繼續試験セントス

夏 作

一、水稻ニ對スル試験

一、菜種油効力試験

本場ノ如キ土壤ニ於テ肥料ノ三要素ヲ施用スルノ外菜種油ヲ加用スルトキハ如何ナル効力アルモノナルヤヲ知ラムトスルモノニシテ各區貳圓筒宛五區ヲ以テ試験セリ其成績左ノ如シ

(イ) 窒素質肥料ニ硫酸アンモニアヲ使用セル場合

菜種油ハ之ヲ元肥ニ施スト追肥トスルトキ間ハズ其効力ヲ認メズ反ツテ有害作用ヲ呈ス

(ロ) 窒素質肥料ニ鍊メ粕ヲ使用セル場合

菜種油ハ元肥トシテ施與スルトキハ稍効力アルガ如キモ追肥トシテ施與スルトキハ其効力ナキヲ見タリ

二、三要素試験

前大麥作ノ跡地ヲ用ヒ目的並ニ方法ハ凡テ前作ニ同ジクシ水稻ヲ以テ試験セルニ其成績ニ依レバ三要素天然供給量ハ大麥作ニ於ケルガ如ク著シク窒素ニ缺乏シ磷酸及加里ニハ比較的富ムモノ、如ク肥料ノ反應ハ大麥ト全ク異ナリ、酸性及中性ノ配合區成績優良ニシテ鹼基性配合區劣レルヲ認メタリ

三、腐植質土壤石灰窒素肥効試験

腐植質土壤ニ石灰窒素ヲ施用スルハ不可ナリトノ說アリ果シテ然ルヤ否ヤヲ檢知セントスルモノニシテ之ヲ硫酸アンモニアト比較セリ試験區別ヲ示セバ次ノ如シ（各區貳圓筒ツ、トス）但シ石灰窒素ハ插秧二週間前ニ施用セリ

第一區、硫酸アンモニア
過磷酸石灰 硫酸加里 酸性

第二區、硫酸アンモニア
磷酸曹達 炭酸加里 弱酸性

第三區、石灰窒素
過磷酸石灰 硫酸加里 弱塩基性

第四區、石灰窒素
磷酸曹達 炭酸加里 塩基性

其成蹟ニ依レバ石灰窒素ハ硫酸アンモニアニ比シ其肥効稍優レルモノ、如シト雖モ尙試驗ヲ繼續セムトス

四、腐植質土壤磷酸適量試験(原土)
本年ノ創設ニ係リ其設計前蠶豆作ニ相等シキモ前試驗ニアリテハ土壤中ノ酸性中和ノ目的ニテ石灰ヲ加用セルモ本試驗ニハ之ヲ加用セズ成蹟ハ未ダ不明ナルヲ以テ尙繼續試験シ確定セントス

五、腐植質土壤磷酸肥料試験(原土)
腐植質土壤ニ石灰ヲ加用セザル場合ニ於ケル各種磷酸質肥料ノ肥効ヲ檢知セントスルモノニシテ各區ニ圓筒宛トシ無磷酸區及骨粉、過磷酸石灰、遠益磷肥、磷礦、沈澱磷酸石灰ノ各肥料ノ少施區及多施區ノ十一區ヲ以テ試験セリ

本年ノ創設ニシテ其成蹟未ダ明確ナラザルヲ以テ尙繼續試験セントス

一、蕎麥ニ對スル試験

六、腐植質土壤磷酸適量試験(中和土)
前作蠶豆後地ニ繼續試験セルモノニシテ設計又前作ニ同ジ、其成蹟ハ磷酸反當五貫匁加用區最モ優良ニシテ磷酸施用量少ナキニ從ヒ成育劣レルヲ認ム

七、腐植質土壤磷酸肥料試験(中和土)
前作蠶豆ヨリ繼續セルモノニシテ、目的並ニ方法亦同ジ其成蹟ニ依レバ四種磷酸肥料中、遠益磷酸及骨粉、最モ優良ニシテ過磷酸石灰之ニ次ギ磷酸粉最モ劣ルヲ認ム

八、腐植質土壤石灰適量試験
冬作大麥ヨリ繼續試験セルモノニシテ、目的並ニ方法前作ニ同ジ

蕎麥ニ於ケル成蹟モ亦大麥作ニ於ケルト同ジク石灰反當三百貫匁加用區最モ優良ニシテ、反當四百貫匁及二百貫匁加用區之ニ次ギ反當百貫匁以下ノ加用區ハ石灰ノ加用量少ナキニ從ヒ成蹟不良ニシテ反當四百貫匁以上ヲ施與セルモノ亦反ツテ生育不良ナリトス

九、灼熱腐植質土壤ニ於ケル石灰窒素試験
灼熱セル腐植質土壤ニ於ケル石灰窒素ノ肥効ヲ檢知セントスルモノニシテ之ヲ智利硝石ト比較セリ其試験區別左ノ如シ(各區圓筒宛)但シ石灰窒素ハ播種十日前ニ施用セリ

第一區	原土	智利硝石
第二區	原土	石灰窒素
第三區	七十度ニ灼熱土	智利硝石
第四區	同	石灰窒素
第五區	百度ニ灼熱土	智利硝石

第六區 同 石灰窒素
 第七區 二百五十度ニ灼熱土 智利硝石
 第八區 同 石灰窒素
 其成蹟ハ灼熱土ハ原土ニ比シ何レモ優良ニシテ原土、七十度灼熱土、百度灼熱土ハ何レモ石灰窒素ノ肥効ハ智利硝石ニ優ルモ二百五十度灼熱土ハ石灰窒素ハ智利硝石ニ稍劣ルモノ、如キモ未ダ明カナラザルヲ以テ尙繼續確カムル所アラントス

桃山分場ノ部

果樹ノ部

果樹ニ關スル業務ハ主トシテ前年來ノ試驗ヲ繼續スルモノニシテ本年ニ於ケル春期ノ氣候ハ概ネ適順ニシテ一般果樹ノ發育良好ナルヲ得タルモ七月以後降雨少ナク稀有ノ旱害ヲ蒙リタルヲ以テ本春來移植シタルモノ、如キハ多クハ其ノ生育ヲ害シ強壯ナルモノモ亦果實ノ發育ヲ妨ゲラレ隨テ收量減少シ或ハ花芽ノ着成ヲ誤リタルモノ少ナシトセズ就中垣作りノ葡萄及ビ無花果、中生種ノ桃、中生種ノ和梨ニ於テ甚ダシキモノアリタルヲ以テ主トシテ灌水ニ注意シ又ハ敷草ヲ行ヒ被害ヲ輕減スルヲ計リタリ
 果蠶虫ノ發生ハ近年稀ナルコトニシテ特ニ梨果ノ加害サレタルモノ頗ル多ク損害大ナリキ
 以下各果樹ニ關スル試驗ノ概要ヲ示サン

一、品種比較試驗

重要品種ノ收量左ノ如シ

品 種 名	樹 齡	採 收 期 間	平均一本ノ收量		反當改算收量		備 考
			個 數	重 量	個 數	重 量	
赤 穂	八年	自八月二十六日 至九月二十六日	四九	一九〇〇	二、六七五	一四二、九〇〇	昨年ニ比シ著シク收量ノ減少セルハ一般結實ノ不良ナリシト果蠶虫ノ被害大ナリシニ依レルモノナリ 長十郎、早生赤ハ例年ノ如ク成績良好ナレドモ世界一、泰平明月、赤龍等ハ或ハ品質劣リ又ハ樹性結 實力ニ乏シク或ハ花芽ノ着成不良ナルモ晩熟ニ失スル等成績宜シカラズ 二、桃 樹ハ孰レモ豫定ノ成長ヲ遂ゲタルヲ以テ冬期剪定ハ主トシテ枝條ノ更新ニ努メ夏間害虫ノ驅除ニ注意 シ特ニ夏期剪定ヲ勵行セリ 昨年ニ比シ、收量ノ劣レルモノアルハ樹性ノ衰ヘタルモノアルト虫害ニヨル屑果ノ歩合多カリシニア レドモ概シテ前年度ト同様ナルヲ得タリ、今左ニ重要品種ノ收量ヲ表示セン
幸 藏	八年	自八月二十六日 至九月二十六日	六六	一、八〇〇	四、九五〇	一三五、六〇〇	
長 十 郎	八年	自八月二十六日 至九月二十六日	五六	二、五四〇	四、二〇〇	一九〇、一〇〇	
早 生 赤	八年	自八月二十六日 至九月二十六日	五三	一、九三〇	三、九八〇	一四二、〇五〇	
品 種 名	樹 齡	採 收 期 間	平均一本ノ收量 個 數	重 量	反當改算收量 個 數	重 量	備 考
アムステルダム	一〇年	自六月二十八日 至七月十二日	一〇八	三、六六九	八、一〇〇	二七五、二七五	屑果ヲ除ク 以下之ニ同シ
ブリックスメイ	一〇年	自六月二十七日 至七月十二日	二二六	四、八六八	一六、九五〇	三六五、一〇〇	

品 種 名	樹 齡	採 收 期 間	平均一本ノ收量 個 數 重 量	反當改算收量 個 數 重 量	備 考
谷 五 郎	一〇年	自七月二十七日至七月三十日	五九 四・四二五	四、六〇〇	
アリーリヴァース	一〇	自七月二十二日至七月二十九日	一四二 三・六八一	一〇、五七五	
上 海	一〇	自八月十九日至九月四日	六七 二・八九四	五、〇二五	

ブリックススメイハ收量多カリシモ果形一般ニ小ニシテ、アムスデンジュンニ劣ル、アリーリヴァース及ビ上海ハ各其熟期ガ優良品種ニ同ジキヲ以テ、ヨク市場ニ歡迎サル、ト雖モ前者ハ特ニ採收販賣上技術ヲ要スルコト多ク動モスレバ市價廉ナルヲ免ガレズ

三、葡 萄

米國種ノ成熟ハ概ネ昨年ト大差ナキモ、オセロ種ハ氣候ノ關係上本年ハ成熟良好ナリシト雖モ晩熟ニ過グルヲ以テ需要少シ歐州種ハ樹齡ヲ重ヌルト共ニ栽培容易ナルノ傾向アレドモ病虫害ニ對シテハ特ニ周到ナル注意ヲ拂ハザルベカラザルモノナリ。主要品種ノ收量左ノ如シ

品 種 名	樹 齡	採 收 期 間	平均一本ノ收量 個 數 重 量	反當改算收量 個 數 重 量	備 考
カ タ ウ ズ	一〇年	自八月二十五日至九月二十四日	三一四 八・六八〇	二二、五五〇	
ブ ラ イ ト ン	一〇	自八月十三日至九月二十四日	三二〇 七・七三〇	二四、〇〇〇	
オ セ ロ	一〇	自十月一日至十一月二十三日	一三七 二・三〇〇	一〇、二七五	

ブ ラ ッ ク ハ ン プ ル グ	一〇	自九月八日至十月二十九日	一一六 一、〇五〇	一、九五〇	七八・七五〇
レ デ ー ワ シ ン ト ン	一〇	自九月八日至十月八日	一八四 四、八〇〇	一三、八〇〇	三六〇、〇〇〇
ハ ー バ ー ト	一〇	自八月十二日至十月九日	一三二 五、七〇〇	九、九〇〇	四二七・五〇〇

四、柿

各品種共開花歩合多ク結實亦良好ナリシモ果蠹蟲ノ侵害激甚ニシテ爲メニ著シク收量ヲ減少シタルモノアリ

宜シク六月下旬ニ袋掛ヲ了ラザルニ非ザレバ安全ノ措置タル能ハザルナリ

五、李

寺田李ハ開花期ニ於テ氣候ノ惡影響ヲ蒙リ結實少クゴールドデングリーンゲージハ結實劣リ而モ賣行未ダ良好タル能ハズ

李類ハ比較的隔年結果ノ劣キ果樹ナルモ、寺田李等ニ於テハ往々カ、ル現象ヲ見ルモノナリ

六、櫻 桃

樹齡十年ニ達シ前年ニ比スレバ各品種共ニ結實收量ヲ増加セリ然レドモ「もにりや病」ノ豫防法未ダ完全ナル能ハズシテ爲メニ侵害サル、モノ少ナカラズ

一、品種見本試作

一、梨

二、桃

昨春移植シタルヲ以テ未ダ樹勢ノ恢復セザルモノ多ク爲メニ其ノ優劣ヲ比較シ難シ

早熟品種ニ關シテハ昨年報告セルモノト大差ナシ、中熟種中、晩生五號(原名アリーグニスミニオン、ナルベシ)ト稱スル品種ハ熟期アリーグアースニ次ギ、カールマン、ニ先チテ頗ル大果ヲ産シ品質良好ニシテ豊産ナリ特ニ採收期ニ注意シタルモノハ貯藏力ニ富ミ、「コンネットアアリー」カールマント共ニ中熟種中尤モ優良品種トナス

今優良品種ノ收量ヲ擧グレバ左ノ如シ

品 種 名	樹 齡	採 收 期 間	平均一本ノ收量 個 數 重 量	反當改算收量 個 數 重 量	備 考
ランヨンス、クリン グト稱スルモノ	一〇年	自六月二十六日 至六月二十六日	八六 二・三四	六、四五〇	一七五・八〇〇
シユーンナーカー	一〇	自六月二十九日 至七月六日	七三 二・〇〇	五、四七五	一五六・〇〇〇
晩 生 五 號	一〇	自七月十五日 至七月三十日	一〇一 四・五六	七、六五〇	三三二・七〇〇
コンネットアアリー	一〇	自七月二十四日 至八月二日	五二 一・七〇五	三、一五〇	一、〇一七・八七五
久 邇 宮 桃	七	自七月十九日 至七月二十九日	二七 ・七二〇	二、〇一五	五五・五〇〇
カールマン	五	自七月二十三日 至八月二日	三四 ・九三〇	二五五	六八・七五〇
チャンピオン	一〇	自八月十二日 至八月二十二日	一〇〇 二・七二五	七、五〇〇	二〇三・三七五

二、苹果

ウイスメニスデザート、スタルク、アアリーメロン、テトホスキー等、結實ヲ初メタリ而シテ後二者ノ如キハ結實容易ニシテ成熟期割合ニ早ク市場ノ賣行良好ナルヲ認ム

三、枇 杷

新ニ高知縣産楠丸及楠長、無核枇杷ヲ増植シタリ其ノ他ノ成績前年ニ同ジ

四、葡 萄

歐洲種ト米國種ヲ合シ約四十品種ヲ栽培シ垣根仕立トナス然レドモ樹齡未ダ若ク且ツハ移植ノ結果樹勢恢復セズ成績不明ノモノ多シ

三、果實試賣ノ成績

主ニ京都青物市場ニ試賣シタル結果ヲ果實別ニ示セバ左ノ如シ

一、桃

京都青物市場ニ六月二十日頃出荷シタル極早生種(主トシテ「ニューホール」ト稱スルモノ及ビ「ラレヨンスクスリング」ト稱スルモノ)ト七月上旬ヨリ出荷スル早熟種(主トシテ「アムスデンジュン」及ビ其ノ類似品種)ト七月中旬ヨリ出荷スル中熟種(主トシテ「アアリーグアース」及「コンネットアアリー」)及ビ八月下旬乃至九月上旬ニ出荷スル晩生種(主トシテ上海水蜜桃)ノ價格ヲ等級別ニ表示スレバ左ノ如シ

(荷造法ハ石油箱三ツ切箱ニ一段詰トセリ、左表ハ各一箱ノ平均個數ヲ示ス)

期別	特		上		中		備考
	個數	價格	個數	價格	個數	價格	
狂熟	—	—	—	—	—	—	
早熟	—	—	—	—	—	—	
中熟	四八	九〇〇	五五	四〇〇	七〇	六一〇	
晩熟	五六	七五〇	六九	六七〇	七三	三五〇	

狂早熟種ハ熟期餘リニ早キト多クハ品質不良ニシテ割合ニ市價廉ニ早熟種及ビ晩熟種ハ比較的、品質良好ナル上ニ出荷一般ニ多カラザリシヲ能ク市場ニ歡迎サレ價格不廉ナルヲ得タリ、中熟種ハ品質良好ナルモノ多シト雖モ盛夏ノ候、ヨク果實ノ損傷スルヲ以テ收益減少スルノ傾向ヲ認ム、東京神田青物市場ニ向テ六月三十日試賣シタル早熟種（アムスデンジュン）ハ一箱二十一個入ヲ以テ賣上高八拾錢ニシテ手取金五拾貳錢（一箇平均貳錢五厘）ナルヲ得タリ、即チ京都市場ニ比シ餘程高價ナルヲ知ル、黃肉種中「ヘンリーエッタ」「アドミラルデュエイ」「トライアンブ」等ハ早熟種中良品ナルモ京都市場ニアリテハ需要少ク價格低廉ナレドモ東京市場ニ發送セルモノハ比較的、高價ナルヲ得タリ今兩市場ニ於ケル試賣ノ成績ヲ示セバ左ノ如シ

市場別	一箱ノ個數	價格	平均一個ノ手取價格	備考
東京	五五	200	300	
京都	五五	1100	210	

一箱個數ノ相異セルハ荷造法ノ相違セルニヨル
二、櫻桃

累年市價低落スルモ未ダ安價トハ云フベカラズ赤色早生種ハ五月二十四日ヲ以テ始メテ京都青物市場ニ出荷セシニ一箱（小形ノ折箱）ノ價格（手取相場）四拾參錢内外ニシテ（一粒平均五厘内外）以後漸次下落シ中熟黃色種（ベルヂユーレヤートネ）ハ四、五日晩レテ採收シ價格一箱貳拾錢（一粒平均四厘内外）以後採取時期晩ル、モノハ何レモ價格廉ニシテ市場の見込少シトス、若シ黃色熟種ニシテ早熟ヨク五月中旬ニ採收シ得ベキ品種ハ最モ有望種ノ價值ヲ有スベシ

三、葡萄

カタウバ種ハ京都市場ニテ一貫匁平均貳拾五錢ノ高價ヲ保チ賣行亦良好ナリ、「ブライトン」種ハ品質良好ナルコト漸次認識サレ一貫匁平均四拾錢内外ナレドモ本種ニ前後シテ出現スル「ハーバート」種ニ比シ市價劣レルヲ免ガレズ「レデーワシントン」種ハ日持宜シカラザルヲ以テ市況劣リ見込少シ

四、果樹病虫害試驗

一、寺田李病豫防試驗

六區ニ分チ石灰硫黃合劑及ビボルドー合劑等ヲ用ヒ諸種ノ方法ヲ以テ豫防試驗ヲ行ヒタルガ黒星病豫防ノ効力ハ充分ナルモノアリタレドモ俗稱日燒病ノ豫防ニ關シテハ猶今後ノ研究ニ待タザルベカラザルモノ多シ

二、梨赤星病豫防試驗

四區ニ分チ石灰ボルドー合劑以外ニ炭酸銅アンモニヤ液及石灰硫黃合劑等ヲ以テ梨果ニ被害ナキ豫防法ヲ研究シタルモ石灰硫黃合劑ハ効果薄弱ニシテ開花當時迄石灰ボルドー合劑ヲ用ヒ其後炭酸銅「アンモニヤ」液ヲ施用シタルモノハ成績概ネ良好ナルヲ認ム

三、櫻桃及ビ桃ノ、もにりや病豫防試験

石灰硫黄合劑ハ成分ノ効力アルヲ認メタレドモ石灰ボルドー合劑ハ被害アルヲ以テ施用スル能ハズ猶今後ノ研究ヲ要ス

四、果蠶虫驅除方法ト毒劑ノ効力試験

主トシテ梨果ニ對シ砒素劑ヲ數回ニ灌注シ驅防ヲ試ミタルモ効力判明セズ猶今後講究ヲ要ス

五、果蠶虫被害豫防ト二度被袋ニ關スル試験

近時著シク梨果ニ侵害スル果蠶虫ノ驅除豫防ハ毒劑ノ効力ニ待ツノ側ラ袋掛ケノ改良ニ關スル試験ノ必要ヲ認メタルヲ以テ長十郎ニ對シ六月上旬被袋シタルモノニ毒劑塗附袋ヲ以テ更ニ四區ニ分チ種々ノ方法ニテ袋掛試験ヲ行ヒタルニ毒劑塗附袋ヲ重ネ被袋スルモノハ結果頗ル良好ニシテ爲メニ要スル多額ノ經費ハ裕ニ償還シテ餘リアルヲ認メ得タリ、去リ乍ラ二重掛ノ袋ハ必ズ毒劑ヲ塗布セル者ト否ラザルモノトノ効力如何ノ關係ニ至リテハ不明ナルヲ以テ此點ニ關シ今後ノ研究ヲ要スベキ點ナリトス

葡萄高等栽培

昨年ニ比シ新ニマスカツトアレキサンドリヤノ多數トシヤセラヴ井ベル。ゴールテンチャンピオン(府廳御苑出)ヲ栽植セシモ何レモ發育佳良ニシテマスカツトオブアレキサンドリヤ、シヤセラヴ井ベルハ結果セシニ後者ハ極早生ニシテ粒小ナルモ佳禿強キヲ以テ促成葡萄ニハ前途有望ナラン
其他從來栽培セルモノ、内各品種共フイロキセラ―虫ノ被害アルヲ以テ發育不良ノモノヲ生ゼリ從ヒテ二硫化炭素ノ注入ヲ時々行ハシシテ成績佳良ナリシ
葡萄ノ横這虫ノ被害ハ葉ヲ犯スノミナラズ其糞尿ハ果實ノ表面ニ附着シ非常ノ損害ヲ呈セシムルヲ以テ七月下旬ヨリ八月上旬ニ青酸瓦斯燻蒸ヲ行ヒシニ頗ル有効ニシテ葡萄ニ少シモ被害ヲ及ボサ、リシ

竹種栽培

從來栽培セルモノモ距離狭キヲ以テ今春廣ク植換セルト同時ニ臺灣ヨリ新品種十一品種ヲ移植セリ夏季ニ於ケル發育ハ常ニ温度ノ不足ノ結果發育後レ氣候ノ降下シ始ムルニ尙ホ成長期ニ屬セル爲メ幹枝ノ充實ヲ得ズ爲メニ越冬上頗ル不利益ニシテ枯死セルモノ五六種ヲ出セリ

蔬菜

本年度試験事項ハ昨年ニ比シ大差ナキモ二三事項ヲ加除セリ而シ主要試験ノ概要ヲ示セバ

(一) 品種比較試験

苾類 供試品種ハ體菜外十品種ニシテ本年ハ非常ノ干魃ノ爲メ蚜虫ノ發生甚シク其栽培ニ困難ナリシモ下種期ニ於テ前年ヨリ早カリシ爲メ意外ノ成績ヲ擧ゲ得タリ其成績ハ

區	別	品 種 名	一反步當收量
第一區	開城白	菜	八四〇
第二區	直隸白	菜	一〇九四
第三區	山東白	菜	八九一
第四區	山東白	菜	一一八
第五區	白莖體	菜	一一二
第六區	白莖體	菜	一〇七七
第七區	北清白	菜	一三二八
第八區	朝鮮白	菜	九九六
第九區	芝罘白	菜	一三八〇

當分場採收ノモノ

區別	品名	一反步當收量
第十區	金州白菜	一、三五六
第十一區	茨城結球白菜	一、二七三

ノ如クニシテ芝罘白菜金州白菜北清白菜茨城結球白菜ハ其ニ最優良ニシテ結球モ亦極メテ可ナリ
蘿蔔 前年ニ繼續ノモノニシテ其成績ハ次ノ如シ

區別	品名	一反步當收量
第一區	九日大根	一、七四三・五二五
第二區	美濃早生 九日大根	一、八〇九・〇〇〇
第三區	島大根	一、七三三・五〇〇
第四區	聖護院大根	一、九二六・〇〇〇

ニシテ就中注意スベキハ早生種ニシテ日數ヲ少ク生産シ得誠ニ有望種トス即チ美濃早生九日大根ハ
此目的ニ最モ適セリ
胡瓜 供試品種ハ札幌節成胡瓜外四品種ニシテ時無胡瓜札幌節成胡瓜ハ其ニ見込ナク清國種聖護院節
成共ニ相當ノ成績ヲ擧ゲシモ清國種ハ外皮ノ色及肉質ノ狀聖護院節成及淀節成種ニ及バズ淀節成
ハ聖護院節成ニ比シ栽培シ易シ
里芋 早生芋トシテハカワラ芋ヲ以テシ中生種及晩生種ノモノニシテ品質ノ善良ナルハ唐芋眞芋ナリ
トス八ツ頭芋ハ肉質極メテ善良ナルモ收量ノ少ナキト調理上稍手數ヲ要スルノ缺點アルヲ以テ需要
モ少ナシ
馬鈴薯 昨年ヨリ二三品種ヲ缺除ス其成績ハ昨年ニ比シ稍趣キヲ異ニシ收量ノ多キハ甲州種ニシテス

日本農園ヨリ購入

岐阜縣北川半助ヨリ購入

同上

ノーフレーキ。サウザルンスタ。グツドリツチ。之レニ亞ゲリ

玉蜀黍 本試験ニ供セルハドワーフサットン種外七品種ニシテ早生トシテ品質良好且收量多キハドワ
ーフサットン。マンモーススウヰート。ニシテマンモーススウヰートハ前者ニ比シ收量多キモ成熟
期稍遅シ此二種ヲ以テ優品トス

(二) 糞類肥料試験 甲

京都附近ニ於テハ一般ニ人尿ノミヲ以テ栽培セルヲ以テ基本肥料ニ人糞、人尿、硫酸アンモニヤ智利
硝品ノ四種ヲ各別ニ使用シ試験セルニ

區別	主肥料名	一反步當收量
第一區	標準肥料	一、〇三三
第二區	人糞	一、一〇〇
第三區	人尿	一、一九〇
第四區	硫酸アンモニヤ	一、一四五
第五區	智利硝名	一、一八五

ノ如クナルモ尙ホ回ヲ重ネ試験ノ要アリ

(三) 糞類肥料試験 乙

此試験ハ茨城結球白菜白莖體菜ヲ以テ磷酸ト加里ヲ多ク施セバ其收量ニ如何ナル關係アルヤヲ試シモ
ノニシテ其成績ハ

區	別	主肥料名	一 反歩	當收量
第一區	標準肥料		1,150.0	90.1
第二區	過磷酸五貫加用		95.2	1,115
第三區	過磷酸十貫加用		1,345.2	1,146.2
第四區	葉灰五貫加用		1,245.2	1,326
第五區	葉灰十貫加用		1,240.2	1,309

(四) ニシテ白菜ト體菜ト其成績ニ於テ大差ヲ來セルヲ以テ尙ホ引續キ試驗ヲ要ス
 菘類ノ藥劑効力試驗

此試驗ハ札幌合劑鯨油石鹼殺虫石鹼鯨油石鹼加用札幌合劑石油乳劑アンザルミン、プルメリヤノ藥品ヲ以テ從來驅除ニ最モ困難ヲ感ゼルサルハ虫(成虫幼虫共)及蚜虫ニ對スル効力ト作物ノ被害ノ狀ヲ試驗セシモノニシテ供試品種ハ山東白菜茨城結球白菜體菜ヲ以テセリ其結果ハ
 札幌合劑ハサルハ虫ニ對シ多少効力ヲ認ムルモ作物ニ被害甚シク尙ホ使用上充分ノ研究ヲ要ス
 鯨油石鹼殺虫石鹼ハ共ニ大同小異ノモノニシテ蚜虫ニ對シテハ効力大ナルモサルハ虫ノ成虫及幼虫ニ對シテ効少ナキモ作物ニハ被害ナシ
 鯨油石鹼加用札幌合劑ハ其成績尙不明ナリ
 石油乳劑ハ二十倍迄デハ被害甚シキモ二十倍ヨリ以上ニ稀釋セルトキハ作物ニ害ナク或程度迄デ殺虫ノ効アリ只注意スベキハ其製法ノ完全ナルヤ否ニアリ
 アンザルミン。プルメリヤハ共ニ効力大ナラズ尙ホ同ヲ重ネ試驗スルノ要アリ

(五) 胡瓜ニ對スル藥劑被害程度比較試驗

此試驗ハ澱節成種ヲ以テ石灰硫黃合劑ノ十度液三十倍ト四十倍ノモノヲ散布シ其被害ノ程度ヲ試ミシニ三十倍液ヲ散布セルモノハ四十倍液ヲ散布セルモノニ比シ被害著シク漸次綠色ヲ減ジ黃葉シ落下スルニ至ル故ニ此藥劑ノ散布ハ尙ホ研究ヲ要セン

メロン高等栽培

昨年ニ比シ品種ヲ増加シ栽培ニ從事セシニ成熟少シク前迄デ發育極メテ佳良ナリシモ成熟前莖ノ土壤ニ接セル部分ニ腐敗病ヲ起シ萎凋枯死セシメ其病勢逞シクシテ成績頗ブル不良ナリシ此病源ハ一種ノバクテリアニシテ未ダ確定セザルモ此メロン栽培ニハ至ル所此病害ヲ見ザルハナシト今後此病氣ノ防除ノ方法ヲ購ズルコト必要ナリトス

花卉栽培

臺灣植物室ニ於ケル植物ハ生育佳良ニシテ室内ニ栽培シ難キノ狀ヲ呈シ植物ニヨリテハ之レヲ短伐シ保護ニ勉メリ
 花卉室ニ於テハ各種植物ノ數ヲ増加シ大ニ繁殖ニ勉メ鉢花又ハ切花トシテ需要ニ應ゼリ
 畑ニ於テハ切花トシテハシヤスターデージー。ストツケシヤ。薔薇。グラヂオルス。エキシヤ。ダリヤ。ゴールデンロット。夏菊秋菊小菊等主ナルモノニシテ其他栽培セルモノハ數十種ニ至ル

綾部分場ノ部

一、蔬菜ニ關スル試験

一、甘藍品種試験

從來ノ試験成績ニ基キ撰定シタル供試品種六種ニ付其性狀收量品質ノ良否ヲ比較對照セシニ早生種ニアリテハ「アーリーゼルシューウ井ンカフ井ルド」「アーリースプリング」中生種ニアリテハ「アーリーサム」晩生種ニアリテ「オータムキング」等收量多ク性質亦良好ナリキ

二、甘藍肥料試験

甘藍ニ要スル三成分ノ適量ヲ知ラントスルモノニシテ左ノ方法ニヨリ之レヲ行ヘリ

區名	窒素	磷	酸	加里
標準區	六・二八九	三・一五三	五・九二二	
窒素加給區	八・三〇四	三・一五三	五・九二二	
磷加給區	六・二八九	四・〇九三	五・九二二	
加里同	六・二八九	三・一五三	七・六九九	

窒素加給ノ爲ニ智利硝石ヲ磷酸加給ノ爲ニ過磷酸石灰ヲ加里加給ノ爲ニ木灰ヲ使用セリ

右試験ノ成績ニヨリ收量多キハ標準區ニシテ窒素加給區磷酸加給區加里加給區ノ順位ナリキ

三、甘藍人尿尿用量試験

本試験ノ目的ハ葉菜類ノ肥料トシテ重要セララルル人糞尿ノ甘藍ニ於ケル適量ヲ見出サントスルナリ即チ堆肥三〇〇貫過磷酸石灰六貫木灰九貫ヲ各區共通ニ施用シ

第一區ニ人糞尿 三〇〇貫

第二區ニ同 六〇〇貫

第三區ニ同 九〇〇貫

第四區ニ同 一、二〇〇貫ヲ加用シタリ

右成績ニヨレバ第一區收量最モ多ク次ハ第四區第二區ニシテ第三區收量最モ少ナカリキ

四、蠶豆品種試験

供試品種六種ニシテ收量最モ多キハ、アーリーグリーン此レニ次ギ早生蠶豆、一寸蠶豆種ノ順位ニシテ在來種收量最モ劣等ナリキ

五、葱取扱法試験

淺葱用九條葱種ニ就キ定植前ノ苗ニ左ノ方法ヲ取り其何レガ良好ノ結果ヲ示スベキヤヲ試ミタリ

第一區 苗ヲ床ヨリ掘り取り直ニ定植シタルモノ

第二區 同葉先及根先ヲ切斷シ定植セルモノ

第三區 同一週間乾燥シ後定植セルモノ

第四區 同二週間同上

第五區 同三週間同上

第六區 同五週間同上

右試験ノ結果ニ依レバ二週間乾燥區收量最モ多ク六週間乾燥區之レニ次ギ收量少ナカリシハ三週間乾燥區及其儘定植セルモノナリキ

六、葱品種試験
 供試品種六種収量最モ多キハ根深一本ニシテ九條之レニ次ギ収量最モ少キハ下仁田葱ナリキ

七、菜菔品種試験
 供試品種八種収量多キハ聖護院、美濃早生ニシテ練馬丸、宮重長等之レニ次ギ堀入種ハ収量最モ少ナカリキ品質ニ於テ煮食用トシテハ聖護院ヲ最トシ漬物用トシテハ練馬、美濃早生優良ナリ

八、蕪菁品種試験
 供試品種六種、収量多キハ湖南、聖護院ニシテ天王寺、近江、札幌ノ順ニ漸減ヲ示セリ

九、蕪菁肥料試験
 本試験ハ適當ナル三要素量ヲ知ラントスルモノニシテ

區	名	窒	素	磷	酸	加	里
第一區	普通肥料		五・三〇九		三・九六三		四・三〇四
第二區	窒素加給區		六・二三二		三・九六三		四・三〇四
第三區	磷酸加給區		五・三〇九		四・九五三		四・三〇四
第四區	加里加給區		五・三〇九		三・九六三		五・一三四
第五區	三要素加給區		六・二三二		四・九五三		五・一三四

右成績ニヨレバ三要素加給區収量最モ多ク窒素加給區ノ標準區之レニ次ギ磷酸加給區收重最モ少カリキ

一〇、薯蕷品種試験
 供試品種五種収量多キハ伊勢、公孫樹ニシテ黒井之レニ次ギ大和薯ノ収量最モ少カリキ

一一、里芋品種試験
 供試品種八種、収量多キハ樂原早生ニシテ土金、養芋、熊野ノ順ニ漸減シ今福ニ至リテハ最モ劣レリ

一二、甘藷品種試験
 供試品種六種、収量最モ多キハ在來種ニシテ新薩摩之レニ次ギ川越、源氏ノ順位ニシテ元池、高須藷ハ品質良好ナリシト雖モ収量劣レリ

一三、甘藷ノ挿植期試験
 本試験ノ目的ハ挿植期ガ其収量品質ニ及ボス結果ヲ知ラントスルモノニシテ左ノ方法ニヨリ施行セリ

第一區 五月一日挿植
 第二區 五月十日挿植
 第三區 五月二十日挿植
 第四區 五月三十日挿植
 第五區 六月十日挿植
 第六區 六月二十日挿植

右成績ニヨレバ第四區収量最モ多ク第一區、第二區、第三區、第五區、第六區ノ順位ヲ示セリ

一四、菜豆品種試験
 供試品種六種収量最モ多キハ「アリユ、ボレーデユ、モンドール」ニシテ次ギニ「チールドホームステッド」「サウサルンドプロリフイック」等ニシテ大王菜豆収量最モ少ナカリキ

一五、漬菜品種試験
 供試品種九種、収量最モ多キハ直隸白菜ニシテ體菜芝罘白菜之レニ次ギ山東菜、結球山東菜、開城白菜、朝鮮白菜、長崎 金州等ノ順位ニテ漸減ヲ示セリ

十六、菜菔播種期試験

秋大根ノ適當ナル播種期ヲ見出サントスルモノニシテ左ノ方法ニヨリ試験セリ

第一區 七月二十日播 第四區 八月二十日播

第二區 七月三十日播 第五區 八月三十日播

第三區 八月十日播 第六區 九月十日播

右試験ノ成績ハ八月三十日播區收量最モ多ク次ギハ七月三十日ニシテ八月二十日、八月十日、九月十日、七月二十日播ノ順位ノ成績ヲ示セリ

一七、薑品種試験

供試品三種ニシテ收量多キモノヨリ示セバ左ノ如シ

大薑、在來、金時ノ順位ナリ

一八、馬鈴薯品種試験

供試品種十二種收量多キハ「アーリーローズ」ニシテ「スノーフレック」「アメリカンウオンダー」「ネムロ」「ノーザンスター」之レニ次ギ「ブロードスアルコマス」「ソーシス」ニ至リテハ收量少カリキ

一九、胡瓜品種試験

供試品種八種、收量最モ多キハ青大ニシテ早生節成、青節成三枚目節成等之レニ次ギ極早生、千成胡瓜等收量最モ少カリキ

二〇、胡瓜肥料試験

胡瓜ニ適當ナル窒素量ヲ知ラントスルモノニシテ左ノ方法ヲ用ヒタリ

第一區	窒素	磷酸	加里
11,000	5,000	5,000	1,948

第二區	3,000	5,000	1,948
第三區	5,000	5,000	1,948
第四區	5,000	5,000	1,948

窒素加給ノ爲ニハ硫酸アンモニアヲ用ヒタリ

右試験ノ成績ニヨレバ第四區收量最モ多ク次ハ第二區第三區ニシテ第一區收量最モ少カリキ

二一、茄室素質肥料試験

各區窒素質肥料ノ種類ヲ異ニシ其何レノモノガ茄子ノ窒素質肥料トシテ適スルカヲ驗セントスルモノニシテ左ノ各區ニ分チタリ

標準區	智利硝石區
人糞尿區	血粉區
油粕區	タンケージ區
大豆粕區	蛹粉區
硫酸アンモニア區	石灰窒素區

右ノ成績ニヨレバ人糞尿區收量最モ多ク蛹粉血粉區之レニ次ギ大豆粕區、標準區收量少ナカリキ

二二、茄子品種試験

供試品種二十六ニシテ其成績ニヨレバ中生山茄子收量最モ多ク橘田茄子、行徳、早生茂木、大芹川等之レニ次ギ佐戸原米國政府茄子等收量劣レリ

二三、南瓜品種試験

供試品種十九種收量多キハ日智屋ニシテ瓢形種之レニ次ギ赤羽、奈良大、三郎丸、ハツバード、西京等ノ順位成績ヲ示セリ

二四、南瓜肥料試驗
本試驗ノ目的ハ南瓜ニ對スル三要素ノ適量ヲ知ラントスルモノニシテ

區名	室	素	磷	酸	加	里
標準區		八九七一		七七一		八二四
窒素加給區		一二七六八		六九五六		八〇四六
磷加給區		八六六八		八四三六		八〇四六
加里加給區		八六六八		七五七五		九九一八
右ノ成績ニヨレバ	窒素加給區收量最モ多ク次ハ標準區ニシテ加里加給區、磷酸加給區ノ順位ヲ示セリ					
二五、越瓜品種試驗	供試品種十種トシ收量最モ多キハ加茂瓜ニシテ大正白、宮村白、之レニ次キ黒門種收量最モ劣レリ					
二六、豌豆品種試驗	供試品種三種收量多キハ佛國大莢ニシテ内國種之レニ次ギ札幌種收量最モ劣レリ而シテ佛國種ハ品質モ亦良シク市場ニ於テ高評ヲ博シタリ					
二七、胡瓜病害豫防試驗	胡瓜ノ病害豫防法ノ善良ナルモノヲ見出サントスルモノニシテ左ノ方法ニヨリ施行セリ					
第一區	無豫防		第六區	石灰ボルドー液四回撒布		
第二區	曹達ボルドー液二回撒布		第七區	同		
第三區	同		第八區	炭酸銅アンモニア液二回撒布		
第四區	同		第九區	同		
第五區	石灰ボルドー液二回撒布		第十區	同		

右ノ成績ニヨレバ石灰ボルドー六回區同上四回區同上二回區收量多ク曹達ボルドー六回、四回區收量少カリキ

二八、蕃菽試作

供試品種六種收量多キハ獅子種ニシテ大甘種之レニ次ギ日光、大獅子、八房、鷹ノ瓜ノ順位ナリキ

二九、玉蜀黍試作
供試品種七種收量多キハ「スカンタン」種ニシテ「アーリーチャムピオン」白色未黍等之レニ次ギ、「アーリーフッドブック」最モ劣レリ

一一、果樹ニ關スル試驗

- 梨品種試驗
- 蘋果品種試驗
- 洋梨品種試驗
- 栗品種試驗
- 栗樹整枝法試驗
- 栗嫁接期試驗等ヲ施行セリ
- 其他生栗殺虫法試驗
- 同貯藏力試驗等ヲモ行ヘリ
- 葡萄品種試驗
- 柿品種試驗
- 梅樹品種試驗
- 栗開園法成績
- 栗砧木試驗
- 同貯藏法試驗

三、見本試作

一蔬菜ハ朝鮮アザミ外四十種ヲ試作セリ
一果樹ハ櫻桃外十二種ヲ試作セリ

雜ノ部

印刷物

本年度ニ於テ發刊セシ報告書類其他普及ノ爲メ印刷セシモノ三種四千部ナリ而シテ右報告書類ハ關係官衙公署學校農業團體篤農家等ニ配布セリ

名稱	部數
大正三年度業務功程	一、〇〇〇部
臨時報告 栗ノ研究	二、〇〇〇部
成績報告	一、〇〇〇部

職員出張件數

本場	回數	延日數
事項		
病虫害及野鼠驅除	一四	二三
打合	六三	七四
講話及講習	二四	四九
視察	一八	四六
調査	二八	二四

品評會審查
會議
實地指導
其他
計

一九三
二二二
三三三

三三六
二二一
三五三
三〇一

事務打合
病虫害驅除
講習及講話

三四七
三八七
二四六

三五八
一三八
二六八

視察
調查
品評會審查
實地指導
研究
其他
計

二四六
三九六
一〇五
三八三

二六八
一五六
一三八
一八八

病虫害驅除

三

三

桃山分場

綾部分場

事務打合
講話及講習
視察
調查
品評會審查
實地指導
其他
計

四二二
二二二
一三五
一七一
四八八

七二八
一六八
一八九
一七二
二二二

本場之部 (粳種之部)

品種名
早稻 大場
同 巾着
同 早生神力
同 有岡
同 米山
同 雜早五八號
中稻 月本
中生神力

數量
一六一
〇六〇
一七〇
一五一
一〇〇
六
一八五
四七三

主ナル配布先
兩丹地方
山城山間部
兩丹地方
兩丹地方
丹後地方
同
兩丹地方
同

中稻	大和日ノ出	●〇八〇	丹波地方
	福山	●一九五	兩丹地方
	伊勢錦	●一六〇	同
	改良白玉	●〇九二	丹後地方
	雜中二號	●二七三	兩丹地方
	箱崎	●〇五〇	同
	戊申都	●〇二〇	同
	朝日	●二七五	丹後地方
	龜治	●四四六	兩丹地方
	雄町	●一六六	山城丹波地方
	八重穗	●二七三	同
	旭又八日ノ出	●六五五	山城地方
	神力	●〇六七	同
	竹成	●一一五	同
	元氣糯	●〇二〇	山城丹波地方
	珍奇糯種五種		各地方
合計	四石三斗九升		

麥種ノ部

大麥 倍取 二石八斗五合
 白瀧 一升

裸麥 屋根裸 六斗六升
 鎌折 九升五合

小麥 寶滿 五升五合

鶏ノ部

雛 參百拾羽
 卵 八百五拾個

桃山分場

果樹 有價 一、〇五三本
 無價 五三本

蔬菜 有價 五三三株
 無價 七貫
 八九袋
 一升六合
 一〇七株
 三八袋
 三合五勺

花卉
 有價 四四九本
 四三袋
 五合
 三八本
 無價 五八袋

綾部分場

蔬菜類 苗 二、〇三九本
 種子 三三五袋
 花卉類 苗 二、七六五本
 種 二〇三袋

果樹類 苗木 八三五本 (内六五一本栗)
 栗接穗 七貫
 陸稻 六升五合

野鼠驅除

野鼠驅除ハ効果著シキヲ以テ年々施行反別増加シツ、アリ本年度ニ於テ施行シタル總反別ハ二千六百五十四町歩ニシテ郡別ニスレバ左ノ如シ

愛宕郡 百町歩
 紀伊郡 四百八十五町歩
 乙訓郡 三百四十三町歩
 綴喜郡 十五町歩

船井郡 二百五十三町歩
 南桑田郡 四百二十五町歩
 何鹿郡 二百町歩
 天田郡 三百二十三町歩
 與謝郡 五百十町歩

分析

本年度ニ於ケル場用分析ノ件數左ノ如シ
 場用分析件數

供試品名	件數	供試品名	件數
配 合 肥 料	九	人 糞 尿	二
厩 肥	二	紫 雲 英	二
大 豆 粕	二	骨 粉	四
石 灰 室 素	四	硫 酸 加	二
菜 種 粕	一	木 灰	二
鍊 種 粕	二	海 鳥 糞	二
過 磷 石 灰	二	智 利 硝 石	一

計 四十點
 場用分析成分數 九十五



終